

(一) 収入 一家の収入は家庭によつて異つてゐる。併し家人の勞力によつて得るものと、財産の利殖から生ずるものと二通りある。財産は家人が勤勞の報酬として得た生産物であつて、貨幣・有價證券・衣服・什器・貨物などの動産と土地・家屋の如き不動産とある。尙其の外に版權・發明權の如き無形のものがある。勞力にも精神上の勞力と身體上の勞力とがある。

そこで収入は經常収入と臨時収入とがある。

(イ) 經常収入 財産から生ずるものには有價證券の配當金及び利子・貸地料・貸家料などである。

勞力から生ずるものは俸給・恩給・年金・營業利益金などである。

(ロ) 臨時収入 財産によつて生ずるものは、諸物品の賣却代金などがある。勞力から生ずるものには、手當金・慰勞金・賞與金などがある。

(二) 支出 一家を支持するのには無論相當の經費を要するもので、家族の健康を保全する爲に要する衣食住の費用。其の他子女の教育費及び諸税・營業資本・交際などに要する費用である。これにも經常支出と臨時支出とある。

(イ) 經常支出 衣食住に要する生計費・地租・家屋税・所得税・營業税・府縣税・市町村税・區費・教育費・研究費・交際費・借家料・借地料・會費・貯蓄・保險・營業資本などである。

(ロ) 臨時支出 諸寄附金・家族の快樂費・旅費・冠婚葬祭費・醫藥費などである。

要するに經濟の原則を知つて、金錢を利用することが甚だ肝要なる事である。一時の慾に引かれて收支の調和を破壊するが如きは斷じて慎むべき事である。

第三節 豫算

一家に於ける生活の程度は、其の家の財産・収入の多少によるものであるから、これを標準として豫算を立てなければならぬ。前節に述べた通り支出の種類は様々であつて、人の慾には際限がない。然し収入には限りのあるものであるから、制限を設けて支出しなければならぬ。注意がこゝに至らないと、始めにさほど必要のない費用でも、支出して仕舞つて、さて後になつて必要な費用を支出することが、出来ない事がある。故に收支の調和を保たせる爲に豫算を立て、これを運用して一定の時期には決算をする。さうして常に支出が豫算に超過しない様に注意することが肝要である。

(一) 豫算の編制法 豫算を編制するには經濟の要旨を考慮して、將來の爲に利益になる様にしなければならぬ。それで一日の出納を見積るもの、一ヶ月の出納を見積るもの、又一ヶ月の分を見積るのと種々あるが、普通一ヶ月の豫算が便利である。無論一ヶ月の豫算は一ヶ月の豫算の基礎となるし、一日の出納は一ヶ月の豫算の標準となるものである。豫算の編制は其の家の収入に應ずべきは、前に述べた通りであるが、人數によつてどうしても儉約する事の出来ないものがある。故に大體の費目を定めて、數ヶ月乃至數年の費用を考へて、それで各項目について豫算を定めることが肝要である。一旦定めた豫算は非常の場合の外は、必ず規定通り實行することが最も必要な事である。そこで豫算書を作製するのに、収入の項目を定める事は是非しなければならぬことであるが、餘り細い項目にまて渉るのは、複雑に過ぎて不便なものである。すべて其の様式の如きは、家計簿記を參考して適宜に記入する事がよろしい。參考の爲に一家經濟の豫算案を示す。

年收八百圓、夫婦と子供一人、下婢一人として一ヶ月の豫算

拾貳圓	家賃	二圓	義務貯金
一圓五拾錢	牛乳	五圓	臨時費

一圓	新聞雜誌	四圓五拾錢	租稅及保險
三圓	下婢	七圓	米代
拾一圓	副食物薪炭油	六圓	主人小遣
三圓	交際費	四圓	主婦子供小遣
一圓五拾錢	家具費	五圓拾錢	貯金

これは唯一例を示したに過ぎない。生活の程度によつて費用も取捨しなければならぬし、費用の増減もしなければならぬ。其の他収入の多寡によつて種々の案を立てることが肝要である。

(二) 豫算の運用 豫算を嚴重に實行して行けば、必ず多少の餘裕が出来る譯である。人は何時如何なる事が起つて、不時の費用を要するかわからぬものである。かういふ場合の用途に貯蓄して置かなければならない。其の他有益の事業に費さうと思つても、貯蓄したものがなければ出来ない譯である。けれども豫算は慎重に組みたて、さて實際に行ふと支出がいつも超過する様になる。故に運用の任にあるものは、常に節儉の心掛がなくてはならない。それでもまだ収入が不足する場合には適當な處置をしなければならぬ。

(三) 決算 豫算を運用した後は必ず決算をしなければならぬ。さうして豫算が正確であつたかどうかを檢めて、次の豫算を作る時の參考とするのである。そのみならず運用をする事を一層巧妙ならしめる爲めの參考ともしなければならぬ。それ故毎月末に小決算をして、一年の終りに決算をするが最もよろしい。

(四) 剰餘の處分 豫算を嚴重に實行して行けば、必ず剰餘を生ずべき筈であることは既に述べた通りである。然らばこの剰餘をいかに處分してよらうか。それは不時の變に備へる爲め、其の他臨時の支出にも要する爲に、貯蓄して行くのが最良の方法である。貯蓄には貯金或は保險其他種々の方法がある。

或は有價證券を買ひ入れる事もよからう。又は地所・家屋・山林・田畑等を買ひ入れて、これを他人に貸すことも利殖の方法である。要は剰餘金を無意味に費消しないで、萬一の變に備へ或は利殖の方法を考へて處分すべきものである。

(五) 不足の處置 前にも述べたが、收支が償はないで、どうしても不足を生じた場合は、一層努力奮勵して、収入の増加を圖ると共に、一層節儉をつとめて平均を保たせる様にしなければならぬ。かくの如くして尙ほ如何ともすることが出来ない場合は、次の順序によ

るより外に途がない。

- (1) 平素貯蓄して置いた非常準備金を以て、これに充てるのである。
- (2) 財産の賣却 家計の不足を補ふが爲に、財産即ち田畑・山林・公債證書株券・家屋・器具等を賣却するのである。これは素より望む所ではないが、非常の場合に際して、萬止むを得ない事である。負債を起せば高い利息を拂はなければならぬから、寧ろ賣却するのがはるかによい方法である。もしかかういふ場合になつたら、ぐづぐづして居ないで、大決心を以て之れを處分して、之れによつて一層奮勵の覺悟を起すことが肝要である。
- (3) 負債 家計上の不足を補ふ爲に、負債を起すのは極めていとふべき事である。あらゆる他の方法を盡して、如何とも詮方のない場合になつて、最後にやる手段である。故に決して輕々に行つてはならないものである。品性を卑屈にするもこれが爲である。又朋友や親戚の間もこれによつて、情誼を薄くするものであるから深く戒めなければならぬ。けれども資本が缺乏して、之れを補ふ爲に一時負債を起して有利な事業を営むのは、一時の融通であるから、さほど忌むべき事ではない。併し是とて慥かに償却する見込があつて、負債を起すのでなければ、止めた方がはるかに勝つて居るのである。

節儉

第四節 節 儉

坐して食へば山も空しといふ諺もある通り、如何に王侯に比する富でも、徒らに費消して顧みない時は、山の如き富も空しさに至るのである。故に一家の經濟を掌るものは、努力して収入の増加を計ると共に、大に節儉して支出の減退を計らなければならぬ。

元來節儉の要旨は、無用の費を省いて有用の資に供するのである。然るに世間往々節儉の要旨を誤つて、必要の費用までも節してしまふものがある。之れは却つて種々の弊害を起すものであるから注意しなければならぬ。健康を害してまでも食費を節するには及ばぬことである。節儉は人の美德であるが、流れて吝嗇となり徒らに金錢の奴隷となつて甘んじてゐるのは、大に賤しむべき行爲である。故に日常微細の事にも注意をして、冗費を省き奢侈に流れぬ様心掛けなければならぬ。

經濟の要は大なる入費を節約するのではなくて、少なる出費を減しめるのである。故に一枚の紙でも之れを無用に使用するはよろしくない事である。例令物品を購入するのでも其の時の必需品に限るのである。一時の好奇心から不必要のものを求めて、棚の隅に上げて置くなどは

誤れるの甚しきものである。すべて衣食住に要する日用品の如きは、現金拂にして掛にして置かない方がよらしい。掛にして置くと思はぬ品も餘計に買入れるものである。かくの如くして常に無用の費を省いて置いて、生産業其他公共慈善事業などには、出費を惜まない様にしなければならぬ。

それから節儉は單に物品及金錢のみをいふのではない。無益に時間を費消する事も、節儉の趣旨を誤つてゐるものであるから、時間も亦金品と同様に考へて、有益なる方面に利用する事は極めて重要な事である。

なほ買物及金錢の取扱について一言して置く。

(一) 買物の注意

(イ) 何百何十圓といふ高價な物を買入れる時は、よく利害得失を考へるが、僅かのものを買ひ入れる時は、利害關係を考へないで、無用に費すことがある。これらは最も注意を要することである。

(ロ) 物品を買はうと思つた時は、先づ其の品が現時必要であるかどうかを考へなければならぬ。若し急を要する物でなければ、例令直段は安くつても買はない方がよい。

(ハ)月末に計算して勘定を拂ふのは便利であるけれども、浪費する傾向があるから、米醬油其の他日用品は成るべく現金で買つて置くがよい。それは前に述べた通りである。

(ニ)強ひて價の安いものを買はぬ方がよい。安からう悪からうのたとへの通り、品質の悪い物を買つて却つて損をする事がある。信用ある店から相當の價を以て、買ひ入れるがよろしい。

(二)金銭取扱の注意

(イ)金銭は誤りの生じ易いものであるから、金庫を備へない家では錠前のあるものに入れて置いて、極めて丁寧に取扱はなければならぬ。

(ロ)手元に不自由のない限りは、銀行其の他に預けて、安全と利殖とを計らなければならぬ。

(ハ)金銭の授受は最も鄭重を要するものであるから、他人に渡す時、又は自らが受取る時に、面前で數を調べて授受すべきものである。又金銭の支拂をする時は必ず請取證をとつて置いて、少なくとも一ケ年は保存して置くべきものである。

(ニ)旅行をする時は決して大金を携へるものではない。旅費の外は爲替にして送るがよい。

い。旅費も一所にまとめて持つてゐてはいけない

又船や車或は旅宿などで、多額の金銭を計算したり、或は所持して居ることを他人に示してはならない。

金銭によつて生じた間違は、わけて相互の感情を害ふものであるから、所謂念には念を入れて取扱ふべきものである。

第五節 貯蓄及び保険

一家の經濟を掌るものは、常に收入よりも少からしめて、剩餘を生ずる様にすべき事は既に屢々述べた通りである。さて其の剩餘金を以て貯蓄及び保険等に充て、置けば、不時の災厄に遭遇しても、狼狽することも亦人に迷惑を掛けることもない。又平素安心して職務に従事することが出来る。

塵も積れば山となるの諺の通り、一厘一錢も積れば遂に巨額の金高に達するものである。元來貯金の要は五圓十圓と纏つたものを貯へるものでない。少額の金を積み立てるのである。若し纏つた金でなければ貯蓄することが出来ないのならば、貯蓄しようといふ意志があつて

も、貧乏人は終身貯金することが出来ない譯である。然るに厘毛を貯蓄して巨萬の富を作つた者さへある。微細の金錢を顧みないものは、莫大の収入があつても、終身營々として何の残す所もないのである。宵越の錢は持たぬといふのは、餘り單調に過ぎて、人生の迂餘曲折變化について、何の考慮もしない淺墓な事といはなければならぬ。貯蓄に成功したものは餘あるを貯へたのでなくて、不足の中から窮乏を忍んで心掛けたのである。餘あるものは、あるに任かせて足らぬ勝ちになる、却つて餘なき者が成功する。皆心掛け一つである。

貯蓄の方法には自家に蓄へるものと、他に託するものとある。自家に蓄へて置くのは、使用し易く、利子も出来ない。又盜難にかゝる恐れがある。故に他に託して貯蓄するが、最も安全で且つ利益がある。他に託するに

(一)貯金 貯金には郵便貯金と銀行預金とある。

(イ)郵便貯金 郵便貯金は、政府の事業であつて、通常貯金・切手貯金・證券貯金などがある、利子は割合に薄いけれども、極めて安全で且つ便利な方法である。

(ロ)銀行預金 銀行預金は、通常當座預金・特別當座預金・定期預金・貯蓄預金などがある。これも同じく便利で且つ利息も郵便貯金に比べると高い。けれどもよく注意して、

信用のある確實なる銀行に預けないと破産などのことがあつて、損害を蒙る事がある。

郵便貯金と銀行預金とは利率に於て大差はないが、郵便貯金は一年一回利子を計算して元金に繰込み、銀行預金は一年二回利子を計算して、元金に繰込むといふ差がある。

(二)保険 非常の場合に於て危険に處する平素の準備法である。財産のない一家扶養の責任者は、多少に拘らず生命保険に加入して置くが、甚だ便利である。保険に加入して居る爲に責任者は安心してゐられるし、家族も萬一の不幸に際會しても、困厄を免れる事が出来るからである。

(イ)保険の性質 保険は年々或は月々又は數ヶ月毎に、金額を一定して、これを會社に拂ひ込むのである。それで一定の年齢に達した時、或は經濟上損失となる事柄が起つた時など、豫め約束した事件に到底すれば、指定した金額を受取る方法である。

(ロ)保険の種類 保険には種々の種類があつて、生命保険・損害保険の二種に大別する。それで生命保険には終身生命・終身定期・養老・教育・結婚其の他種々ある。損害保険には火災保険・海上保険などがある。すべて保険は期限の長短、其の他の事情によつて拂込の金額にも多少の差がある。

そこで會社の種類にも、株式組織と相互組織とがある。相互組織は其の性質上被保險人の爲に甚だ有利である。すべて會社の信用を考へて損失のない様に注意する事が、必要である。

廢物利用

第六節 廢物利用

一枚の紙と雖も無益に使用しない事は、經濟上重要な事であるけれども、又一方に廢れたる物を利用することも、亦家事經濟の上に於て極めて必要な事である。障子を張り換へた破れ紙も立派な鼻紙になる。故に一家の主婦たる者は、一通り心得て置かなければならぬ。一旦使用した廢物でも、利用の如何によつては、富を致すものとなるものである。例へば蠶節玉子の箱・砂糖菓子折・其の外ボール細工の箱・端書の反古などは、皆打壞して薪の補とするし、又は焚付の代用とする。米をといだ白水は野菜草花の肥料ともなるし、白木綿の洗濯にもなる。珈琲のかすは盆栽の肥料となるし、石鹼水の廢物は肥料ともなるし、草花や野菜の殺蟲劑ともなる。裁縫の糸屑及び端切れは、これを貯へて置いて縫ぎ合す時は、織物とする事が出来るし、靴下の廢物は下雜巾ともなる。古洋服は壞して坐蒲團となる、鳥類の羽毛は綿

に代用して、羽蒲團を作ることが出来る。すべてかくの如く注意すれば、一旦使用して廢物となつた物が、利用されないものは甚だ少い。故に廢物として捨て、顧みないといふのは、利用が出来ないといふのでなくて、利用をしないのである。何事に拘らず能はざると爲さざるとの別を考へ、利用の道を講じなくてはならぬことである。

第七節 家計簿記

家計簿記

何事に限らず記録してあるものがあると、過去を知つて現在に比較するし、又將來に鑑みる事が出来て、どの位都合がよいか分らない。殊に一家の金錢出納の如きは、最も簡單明瞭に然も正確に記載して置かなければならぬ。一家收支の實況を記録するのは、家計簿記が最良たるものである。即ち一家經濟の狀況を一目の下に瞭然たらしめるもので、一家の財政を整理する爲には、一日も缺くべからざるものである。昔から臺所帳とか、小遣帳とかいふ帳簿を作つて、日常生活に於ける過去の經費の收支を記入して居つたが、甚だ杜撰なものであつた。けれども現今の簿記法によれば、收支の金額及び其の費途が頗る簡明であるから、従つて金錢を鄭重に取扱ひ、空費を省く習慣を生じて來るから、家政の紊亂を來すことなどは

少しもない。其の上過去の経費を知る事が出来るから、大に將來の注意を喚起する事が出来る。自然に節儉の實行が爲し得られると共に、豫算を立てるのにも甚だ便利である。故に簿記法によつて記入するには、周到なる注意を以て、收支の状況を明確に記入するので、漠然たる記録をしたり、誤つた計算をしたりしない様にしなければならぬ。

一家に備へて置くべき帳簿の種類は、

- (一)日記帳 日々の収入支出及び収入の原因・支出の用途などを明細に記入するものである。
- (二)賄費明細表 飲食及びこれに關する費用は口數が多いから、日記帳に一々記入する時は煩雜であるから、日々でも一週間の終りでも或は月末にても其の支出をまとめて、ペ高を日記帳に轉記する爲に、かういふ別帳簿を作つて記載するのである。
- (三)雜記明細表 金額がまことに少くして口數の多い、勘定科目の何れの部にも入らないものを、前と同一方法によつて別に記載するものである。
- (四)元帳 勘定科目によつて一々口座を設けて、日記帳に記載したものを、各科別に記入するものである。カード式などは最も便利である。
- (五)月末計算表 一ヶ月間の會計状況を明瞭にさせる爲め、元帳の各科目のノ高を擧げる

ものである。若し元帳を用ゐなかつたら、日記帳から計算してこれに記入するのである。

(六)年末計算表 一ヶ年又は半ヶ年間の會計状況を、各科別、各月別に記入する一年若くは半年間の會計帳である。

(七)財産一覽表 一家の財産に屬するすべての動産・不産動産等を記載して家計の状況を明かに示すものである。表簿の種類は大概以上の如くであるが、家計の状況によつて、特に必要なものを選んで其餘は略してもよい。然し日記帳・月末計算表・年末計算表の三種は、最も必要で略すべからざるものである。

なほ記帳の注意を述べると、

- (一)記帳の文字は最も明瞭に記して、誤りのない様に注意する事。
- (二)其の日其の日に必ず記入すること。
- (三)若し誤つて記した場合には、これを塗り消したり、或は削る事をしない、二本の朱線を引いて誤の項を明瞭にして置く事。

なほ帳簿に掲げる科目の種類も各生計の程度又は職業などによつて異なるものであるが、一例を示すと、

●●●●
収入の部

- 一、俸給・營業利益金等。
 - 二、年金・恩給・賞與金・手當金。
 - 三、利息・配當金・公債・預金の利子。
 - 四、貸地料・貸家料・小作料等。
 - 五、雜收入。
 - 六、預金・貸金・立替金。
- 支出の部
- 一、賄費・食費・薪炭料・瓦斯・電燈料・及び食物の調理に要する費用。
 - 二、被服費・衣類足袋靴下・下駄・帽子・蝠蝠傘・洋服の附屬品等。
 - 三、借家又は借地料。
 - 四、器具費。
 - 五、諸税。
 - 六、教育費。

- 七、圖書費。
- 八、醫藥費。
- 九、小遣費。
- 一〇、交際費。
- 一一、修繕費・家屋の修繕・垣塀の繕方等。
- 一二、雇人の給料。
- 一三、雜品費。
- 一四、雜費。
- 一五、郵便費。
- 一六、臨時費。
- 一七、貯金・貸金・立替金。
- 一八、保險料。
- 一九、債券・公債證書・株券の買入費、
- 二〇、地所家屋の買入又は建築費。

以上はざつと示したもので、其科目は事情に應じて、増減すべきものである。

善良なる
家風

第十章 一家の整理

第一節 善良なる家風

國には其の國の美風がなかつたならば、決して發達興隆する事は出來ない。一家も之と同じ様に、一家の美風がなかつたならば、家の繁榮は期すべからざる事である。一家の美風は一國の美風を作る基礎となるもので、頗る大切なものである。故に一家を整理する爲には善良なる家風を作らなければならぬ。家風が善良であれば、家人は自ら之れに感化されて、一家の整理上莫大の利益がある。恰も健全なる社會に生活する人民は、勞せずして徳化が行はれるから、行政上苦心が少ないのと同じである。古語にも其家を齊へんと欲するものは、先づ其身を修むとある。故に善良なる家風を作るには、家長は勿論主婦自ら模範となつて、其の身を修め、然る後他を指導すれば、勞する事が少くして、善良なる家風を造ることが出来るのである。

一家の美風を造るには次の要件に注意しなければならぬ。

(一) 規律 一國を治めるのには一定の法律が必要である。家を整理するのも亦規律がなければならぬ。すべて何事でも之れを治めるのに、規律を正しくすれば、如何に複雑なる用務も、手数を省いて進捗を速かならしめるものである。一日の中に時を定め、又一週の中に日を定めて用事を辨ずるなどは、事に臨んで考慮する煩勞もなければ、指揮する世話もない。すべて豫定に應じて、準備や繰合せが出来て、時間と勞力とが省けて、經濟上利益が多いのである。

故に日々きまつてゐる用事の外は、必ず前夜考へて置く事が必要である。朝になつて考へて居るなどは、甚しく用務の進捗を妨げるものである。

(二) 整頓 整頓は用務の進捗を計るに甚だ必要である。不整頓であれば物品の所在は判明しないし、従つて搜索するのに時間を空費するものである。例へば一切の家具を取扱ふ上についても、其物品の性質によつて位置を定め、妄りに置替へない様にすれば、時間を費さないで使用するのに便利がよい。衣服を始末するのでもさうである。差し當つて入用なもの、さうでない物と分けて箆筒なり長持なりに入れて置く。其の他小切や糸綿などの類は、各類を分けて相當の器に入れて置けば、入用の時になつて、箱をすつかりあけてし

まつて、探し求める様な事はない。又厨房に於て食具のうちでも、日常用ゐる物と然らざるものとは相當に分けて、稀に用ゐるものは箱に納めて破損を防ぐ様にするのである。かくの如くすれば時間を省き、勞を省いて用を辨ずる事が出来る。其の他物置の整理も同じ事で、薪炭雜物等程よく置場を定めて、混雜のない様にして、使用後は必ずもとの處に納めて、秩序よく整頓すれば外見の美なるのみでなく、使用にも便利であり、保存の上にも有益である。又新聞雜誌書狀の不用なものは、便宜處分して、入用なものとは不用なものは分類して、他日所要の折に整理して置くべきである。

(三) 勤勉 畏多くも戊申詔書に勤儉産を起し。と仰せられてある。身を治め家を保つは實に勤勉でなければならぬ事である。主婦が勤勉であれば、僕婢までも之に倣つて、逸遊荒怠を誠しめる様になる。故に主婦たる者は毎朝未明に起きて、第一容儀を整へなければならぬ。然る後婢僕を管督して飲食を整へ、老幼を看護して日々定まつた處の業に就くのである。然るに事實はこれに反對して、一切を婢僕に委ねて日三竿を出づる頃驚いて目を覺ますのである。故に家の事務が常に澁滞して、事々皆疎放に流れてしまふ。早起は用務がはかどるばかりでなく、新鮮な空氣を呼吸して血液を清静ならしめるから、人體の健康を

保つのに大に必要である。

白駒の隙を過ぐるが如しといふのは、人生の短いのにたとへたもので、これによつても一寸の光陰軽んずべからざるを知る事が出来る。故に最も戒むべきは時間の浪費である。時間の過ぎゆくのは極めて早いものであるから、寸時も無益に過ぐしてはならぬ事である。運動の爲に戸外の散歩を試みるなどは、相等の目的を有して居るからよいが、徒らに目的もなく時を費すのは金を浪費すると同じ事である。であるから慎むべきは遊惰安逸に流れる事である。たとひ身分は高く婢僕を多く使用して、少しも身體を勞することがなく、用を辨ずる事が出来る人でも、己の當然執るべき務を怠る事なく、自身其事に當つて或は人を指揮するなど、出来る丈光陰を利用する事を計らなければならぬ。それから暇があつたら讀書に心掛けなければならぬ。「暇なしとしてふみよまぬかな」と、古人はいつて居るが實に其通りで、無駄話をする時間はあるが、さて讀書をする時間はないと見える。經驗の必要はいふ迄もないが、讀書によつて知識を廣め、心力を練りさうして、社會の事情に通じることが出来るのだから、勤勉の習慣は富貴と貧賤とを論ずべき要はない。必ず養はなければならぬことである。

(四)清潔 清潔は身體の健康を保つ要件の一に數へられる。家屋庭園の掃除がよく行届き、衣服調度も常に清楚であつて、食物の調理はいふに及ばず、食器雜具まですべて清潔になつて居ると、此位氣持のよいものはない。これが即ち家人の快樂を増す所以である。かくの如く人の感情を快くさせるばかりでなく、心も亦端正ならしめるものである。なんでも平氣で不潔にして居る習慣は、畢竟無精から起つたもので、無精は即ち放慢怠惰に流れたからである。潔癖に失しても寧ろ清潔を好む習慣は、荒怠に流れるよりはるかに勝つてゐる譯である。

第二節 婢僕に對する心得

婢僕を使用する目的は、家人の職務を助けさせるのであつて、決して一任するものではない。たとひ家富み榮えて、數人の婢僕を使用するからといつて、衣食住の事を始め大切な育児の事まで、一切の家事を擧げて、學識もなく經驗もなき若い者に委任する事がどうして出来よう。故に主婦たるものは、婢僕を率ゐて指揮監督すべきもので、又出来るかぎりは手を下して其の職務を行はなければならない。若し其の監督が不十分であれば、これは婢僕使用の目

的に違ふものであつて、奢侈と怠惰とから起るものである。然し婢僕是一家の用事を助けしめる爲には、大切なるものであから、其の選擇や使ひ方などには、十分の注意を要するものである。

(一) 婢僕の選び方 婢僕は一家中の卑者であるけれども、其の良否は家事に影響することが少くない。故に主婦は人を見る眼識を具へて、之れを雇ひ入れる時は、目見えと稱する一兩日間に於て、頭髮・衣服・履物の様子、其他應對振などて其人となりを察して、適當なものを選ぶのである。

婢僕として左の諸件を具へる事が必要である。

- 一、正直なるもの
- 二、身體強壯なるもの
- 三、忠實なるもの
- 四、清潔を好むもの

如何なる目的に使用するのでも、以上の要件は具へなければならぬ。この要件を具へて用ゐようとする目的に適つて居ると認めれば、仕事と給金との約束をして雇ひ入れるので

ある。

婢僕を雇ひ入れる最も簡便な法は、雇人口入屋に申込みのである。其の他知人・出入商人などに依頼するものもあるが、どれも多少の弊害がある。然し後者の方が安全である。愈決定した時は確實な身元引受人を立てしめる事は最も肝要である。

(二) 使ひ方 婢僕を雇ひ入れた以上は、日々の仕事の順序及び其の仕方のあらましを説き聞かすのである。人を使ふのは人に使はれるといふ心持を以て、之を愛し同情を以て氣永く導いて、若し足りない所があつたらこれを教へ、過があつたら諭して寛裕に取扱ふのである。故にたとひ自己の意に満たぬ事があつても、大なる害のないかぎりは大目に見過ごし、家族と見做して懇に指導する時は、其の徳に感じて喜んで働く様になる。如何に心服したからといつて、雇人のことであるから、家事の秘密や自身の不平などを、露ほども洩らしてはならない。これ自身の品位を下げる所以である。僕婢の使ひ方には大に巧拙のあるもので、巧に使へば婢僕は喜んで働くから、仕事も大に捗るものである。若しさうでないと共に不愉快で仕事は少しも捗取らない。故に目の前ではよく取り繕つてゐるが陰で怠り、甚だしい者は他に向つて悪しき様に吹聴することなどがあつて、思はぬ損失を蒙ることが

ある。一例を擧げて見ると多少教育を受けて、經濟などの心得のある若い主婦などが、寒中冷水で拭掃除をさせるといふことは、往々聞く所であるが、自分は冷水浴で身體を鍛へたといつても、他人にさういふ了簡を以てやつてはならない。掃除洗濯などは充分に湯を使はしてやるがよいのである。若し暇があつたら讀書・習字・裁縫などを教へて、將來心得となる様な事柄は話して聞かせるのである。かくの如く恩愛は施しても、これに狎れしめてはならないので、飽くまで主人たるべき威嚴は保たなければならぬ事である。要するに恩威並び行はれて、徳に懐く様に心掛けることが大切である。

(三)職務の配當 數人の婢僕を使ふ時には、各長所に従つて職務を配當してよくこれを守らせるがよろしい。例へば主として割烹を司どる者、薪水の勞を取る者、其の他保育の事に關する者など、家々の模様に従つて職制を定めて、各自に分擔させるのである。職務の配當が不明了であると、却つて怠慢に流れるものである。故に雇入れる時に職務の區域を知らせて、職務内の事に責任を負はせると、競つて其職に盡す事になるから、監督上大に便利である。故に一旦定めた以上は、安りに職務外の事を命じてはならない。

(四)給與 其の職務の難易や人物年齢等によつて給料の高下を定めるのである。其給料は

雇ひ入れる始に、慥かに契約を定める事は勿論必要である。定めた給料は必ず定日に渡さなければならぬ。又食物はなるべく好む物を十分に與へるがよい。食物の可否は苦情の第一となるものである。時を定めて一年中幾日、或は一月の何日かの暇を與へ、又一日の中にも自身の修養や、衣服の仕末などを自由になすべき時間を與へるがよい。定めた仕事の外に餘分な事を命じたり、仕事の忙はしき時は品物などを與へて、これを勞ふがよい。婢僕に給するものは決して吝てない様に心掛けなければならぬ。けれども與へる時はよく考へて、活かして與へる工夫をしなければならぬ。與へる場合も亦公平でなければならぬ。又婢僕の人物を知るのは無論必要な事で、職務の難易繁閑等について其實際を察して、勤惰の状況もよく知る事が肝要である。

尙解雇の時は其の年限、仕事の種類、勤務の模様及解雇の事情によつて夫々金品等を與ふべきである。

要するに婢僕を管理するは容易な事ではないので、其の良否の影響も大なるものであるから、前項の心得を知つて適當なる處置を執らなければならぬ。己れの心を以て婢僕の心とすると大なる過があるものである。

第三節 交誼の圓満

主婦は内一家の整理を完全にすると共に、外親戚・朋友・知人等の交誼を圓満にして、内治外交共に申分のない様にしなければならぬものであるから、其任務の重い事は一通りではない。交誼を圓満にするには、誠實を主とし、禮儀作法を重んじ、親戚朋友に對しては、深切でなければならぬ。

(一)誠實 人と交際するには誠實でなければならぬ。誠實でなければ心に表裏があるから、表面ばかりの體裁を作つて人に接するから、眞實は徹底しない。眞實が徹底しなければ、交際の圓満を望むことが出来ない。故に強ひて他人の意志を迎合することに勉めなくてもよいから、常に誠心を以て人に接すればよい。さうすれば無益の争を起して、徒らに人の感情を害ふ様な事は決してないのである。

(二)禮讓 人と交際するのに如何に誠實を以てしても、禮讓を以て進退を節度しなければ、行ふ處が野卑に流れるのである。従つて人の誤解を招き、或は人の感情を害して、圓満なる交際を繼續して行く事が出来ない。禮を以て節せざれば亦行はるべからずと、古人はい

つてゐるが實に其通りで、禮讓作法は最も大切である。

(三)深切 親戚は一層意を用ゐて、最も親密に交際しなければならぬ。親戚は血族或は姻戚の關係があるものであるから、言語舉動すべて打解けて、情を籠めなければならぬ。主婦の親戚には疎情であつても、家の親戚に對しては手厚く待遇しなければならぬ。若し不時の災害を蒙つたり、或は一家分散の不幸に遭遇した場合は、及ぶかぎり深切を盡して誠意を表さなければならぬ。

朋友信ありと五常の中に加へてある通り、大切なものであるから、其交際を害つてはならぬ。故に若し家長の友人が來訪せられた時は、深切に待遇して友人が其家を訪問するを樂とする様にしなければならぬ。窮困落魄した時は、良人に勸めて相當の救濟法を講じなければならぬ。

小學校 家事家政教材集成 終
女學校

小學校 家事家政教材集成補遺
女學校

結婚問題

◎結婚問題

神聖なる家庭の要素は、夫婦の成立が完全にならなければ組織されないのである。然らば夫婦の完全なる成立といふのは如何なることであらうか、それは即ち結婚に外ならぬのである。

然るに近時この結婚について、よほど喧しい議論も唱へられてゐるやうだし、又結婚数が減少して離婚数が著しく増加したやうである。けれどもこれは道徳を無視し、習慣を破壊した結果であるやうに思はれる。或る一部の論者は結婚法を評論して最後に、かういふ事をいつてゐる。今日行はれてゐる結婚法は、習慣や道徳や法律が不合理・不人道であるから、形式だけて事實の上には何等の効力がないといふのである。つまり相互の愛情が主なるものであるから、愛をはなれては法律も道徳も習慣も、形式のみに止まるのである。これは議論として成立つかどうか分らぬが、歴史習慣からいつても、道徳法律からいつても餘りに極端な説で

ある。然らば結婚は不必要かといふのに、決してさうでない。人間は本能生活からいつても、實際的生活からいつても、結婚は是非しなければならぬのである。さうして見れば形式・實質共に習慣・道德・法律には従はなければならぬ。習慣を破壊し道德を無視した結果は、幾多の不義、幾多の悲劇を生み出すに至るであらう。

又青年や處女達がこれから家庭を作らうとする時、祖父なり両親なりが、要求した以上の高い安樂の標準を要求する事も、結婚數の減少した原因の一かも知れない。又男に男らしい氣風が失せて、よほど女性化したし、女がどんどん社會の表面に立つて働いて、獨立するに困らない者も随分ある。是等も全様結婚數の少い原因であらう。其の他西洋倫理が輸入されて、學理が愈高尚に進むと共に、實際と議論との懸隔が甚しくなる。又同時に忌むべき風習も輸入されて、古來の道德は陳腐であるといふ一言の下に、蹴落されて仕舞つた。是等は結婚數を少くし、離婚數を多くせしめた原因であらう。

一般婦人の愛讀する雜誌類を繕いて見ると、結婚に對する評論がのせてないものはない。是等の現象は神聖なる家庭を組織し、一國をして富強ならしめる上に於て、大にいとふべき事である。故に飽くまで道德法律に従つて、神聖なる家庭を組織しなければならぬ。

男子が成年に達すれば、父母はこれが爲に良縁を得んことを希ひ、女子が相當年齢に達すれば、父母はこれが爲に良縁を求めん事を希ふのは、其の情に於て古今を通じて異らないのである。故に以下法律上・生理上・精神上より結婚について、其の大意を述べて見よう。

こゝに一つ注意して置かなければならぬことは、法律に規定せられてゐないからといつて、習慣や道德を無視してならない事である。若しさういふことがあれば、夫婦の成立といふ事が不完全になるし、随つて家庭組織の神聖を缺くことになる。

冠婚葬祭といふ四つの大禮中、結婚は人事の最も趣味ある、又大に意義ある生活に入るの端緒であるから、十分に考慮を費さなければならぬ。これから實質上の要件について述べる。さて民法の規定によれば、

(一) 男ハ滿十七年、女ハ滿十五年ニ至ラザレバ婚姻ヲ爲スコトヲ得ズ

とある。これは早婚の弊を防いだもので、日本は早婚の習慣があつて、女が十二歳位で結婚した例もあつた、かくの如きは、生理上夫婦の身體が充分に發達しないから、生れた小兒までが多くは弱いものである。

(二) 配偶者ナルモノハ重テテ婚姻ヲ爲スコトヲ得ズ

とある。これは一夫一婦の制を明かにしたもので、若しこの規定を破れば刑法上の制裁を受けなければならぬ。即ち社會の秩序を保ち、女子の貞操を完からしめんが爲めである。

(三)直系血族又ハ三親等内ノ傍系血族ノ間ニ於テハ婚姻ヲ爲スコトヲ得ズ

とある。これは親族の結婚を禁止したもので、是非さうなくてはならないのである。直系血族といふのは、

一、父母 二、祖父母 三、曾祖父母 四、玄祖 五、玄祖父母 六、玄祖の祖父母で直系尊族親といふのである。此等に對して直系卑族親といふのは、

一、子 二、孫 三、曾孫 四、玄孫 五、來孫 六、弟孫で、傍系親といふのは自らの兄弟姉妹及び其の子孫と、も一つは自らの伯叔父母及び其の子孫といふのである。尊卑に係らず直系親族の結婚と、傍系親族である兄弟姉妹甥姪及び伯叔父母との結婚を禁じたのは、人倫の秩序を破壊して、生理上の大害があるからである。併し従兄弟の結婚はよくあるが、これは傍系四親等であるから、民法には規定されてゐないが、生理上の危害はあるのである。

(四)直系姻族ノ間ニ於テハ婚姻ヲ爲スコトヲ得ズ

とある。又之に「姻族關係ガ止ミタル後モ亦同ジ」と付加してある。嫁又は婚の父母、祖父母

が直系姻族で、これも人倫の秩序を重んじたのである。

(五)子ガ婚姻ヲ爲スニハ其ノ家ニ在ル父母ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

但シ男子滿三十歳女子滿二十五年ニ達シタル後ハ此限リニアラズ

又父母ノ一方ガ知レザル時、死亡シタル時、家ヲ去リタル時又ハ其意志ヲ表示スルコト能ハザル時ハ他ノ一方ノ同意ノミヲ以テ足ル。父母共ニ知レザル時、家ヲ去リタル時、

又ハ其意志ヲ表示スルコト能ハザル時ハ未成年者ハ、其後見人及親族會ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

とある。これは青年男女の無分別な結婚は、前途の不幸を招く基となるから、親が冷靜な頭腦を以て、是非の判断を下す爲めである。

又男が滿三十歳女が滿二十五歳になれば、此時代は常識も發達するし理性の判断も十分であるから同意を得なくてもよいのである。併しこゝが前に述べた通りで、法律に規定がないからといって、親の同意も得ないで勝手に結婚するのは、甚しい不徳である。

(六)繼父母又ハ嫡母ガ子ノ婚姻ニ同意セザル時ハ、子ハ親族會ノ同意ヲ得テ婚姻ヲ爲スコトヲ得

とある。これは繼父母又は嫡母は實父母に比べて愛情が薄く、爲に迫害される事などがあるから、繼父母或は嫡母の不同意が當か不當かを、親族會議に訴へて判決をまつて表明するのである。それから形式上の要件は、

(七)婚姻ハ戸籍吏ニ届ケ出ヅルニ由リテ其效力ヲ生ズ、前項ノ届出ハ當事者雙方及ビ成年ノ證人二人以上ヨリ口頭ニテ又ハ署名シタル書面ヲ以テ之レヲ爲スコトヲ要ス

即ち婚姻したら互に届出なければならぬので、これは社會の風教を保つ上には必要な事である。若し此手續きが濟まなければ私通と區別する事が出来ない。

婚姻届の書式を參考として記載する。

婚姻届

婚姻届

何府縣市何郡何村何番地	
戸身分職業	
夫	何
右父職業	何
右母	何
生年月日	某

何府縣市何郡何村何番地	
戸身分職業	
妻	何
右父職業	何
右母	何
生年月日	某

右婚姻候間別紙何何同意書相添此段及御届候也

何府縣市何郡何村何番地	
戸身分職業	
届出人	夫何
届出人	妻何
生年月日	某

何府縣市何郡何村何番地	
戸身分職業	
證人	何
生年月日	某

何市町村長何某殿

婚姻同意書 (男子の分)

結婚問題

右長男何某より今般何市何町村何番地何某何女何某と婚姻取結申度旨申出候處右は適當と認め候に付同意を表示候也

年 月 日

何府縣市何郡何町村何番地
戸主身分職業

父 何 某
母 何 某

婚姻同意書 (女子の分)

何女 何 某

右何女何某儀今般何市何町村何番地何某と婚姻取結申度旨申出候處右は自分共に於て素より希望に付同意の旨を表示候也

年 月 日

何府縣市何郡何町村何番地
戸主身分職業

父 何 某
母 何 某
戸主 何 某

選擇の方
法の要件

それから結婚は人生の一大事であるから、結婚するについて十分の用意と慎重の態度とが缺けて居ると、これによつて破鏡の歎を招くとか、或は其の他悲惨な事實を生み出すことがある。そこで注意の要件を擧げて見よう。

結婚の時期に就いては色々議論もあるやうである。早婚を可とする者、又は非とする者各一理があるやうである。或は晩婚を可とする者もある。何れも一理ある説であるが、又多少の弊害がある。一般に異論のない處は、男子は二十六七歳、女子は二十一二歳位である。女子の此年齢は生理上の發達からいつても、家事の實習の上からいつても、最も適當の時代である。けれども周囲の事情や種々の都合上から、時代を豫定する譯にもいけない。故に各便宜の時期に於て結婚するのが、最も當を得て居るのである。

- 一、相手の人物如何を知ること。
- 二、遺傳即ち血統の良否を知ること。
- 三、家庭の狀況を知る事。
- 四、財産及負債の有無を知る事。

結婚問題

第一要件については、相手の學識才能徳操は尊敬するに足るかどうか、嗜好趣味が一致するかどうか、交友の状況はどうかといふ事を調査する要がある。交友の良否は本人の品性や學識才能等を知るに都合のよいものである。

第二については、本人の健康状態、肺病其の他遺傳性病氣の有無については家族近親まで取調べるのである。其の他精神上の遺傳の有無も同時に調査するのである。

以上の二要件は、最も重大なるものであつて、此二つが具備して居る以上は、他の二つに於て不備の點があつても忍ぶことが出来る。

第三は家庭の状況を調査すれば、本人の人格や才能も略分る。家庭が平和であるかどうか、親族間の交誼が圓滿にいつてゐるかどうかは、結婚後の苦痛の元になる事である。

第四は要件として最も軽いのでありながら、結婚後に於ける懊惱苦痛其の他の悲劇は、主としてこれから起る様である。財産を貰ふてなく、財産に嫁するのでもない。然るに是が第一の目標となるのは痛歎に堪へられない事である。愛情に基く夫婦間に財産が何の價値があるか。離婚の率が増加して結婚率が減少したのは、要するに九分通りこれではあるまいか。嫁期を逸して不遇をかこつ婦人も元をたゞせば、矢張これではあるまいか、人物性行が申分なく、

其の上血統が純潔であつたら、假令財産がなくとも自然に生活上の經濟は豊かになり得るものである。

天地は萬物の逆旅にして光陰は百代の過客なりといつて、遊んでばかり暮していく時代ならば兎も角、生存競争の烈しいこの世の中、財産の有無は目標の外に置くが間違の少い基である。けれども負債の有無は大に注意しなければならぬ事、之れ有るが爲に立派に活動の出来るのも出来なくなるし、甚しいのになれば精神までも束縛されてしまふ。

特に注意して置きたいのは媒灼人である。「どうせ嘘で固めた媒灼人」などいふ事がある。これは自己の目的を達する爲に手段を選ばないのであるから、殆んど信用するに足りないのである。併し媒灼人は習慣上是非なければならぬものであるから、出来る事なら自分が先輩として尊敬を拂ふに足る人を求めるのが肝要である。

それから結納の交換は、法律上何等の効力がないが、習慣上確實な契約の證據物件である。結婚式は嫁なり婿なり貰ふ家に於て夜行つたものである、婚は女に従ひ昏に従ふとかいつて、やかましかつたが、近來は神前に於て多く行ふ事になつた。

以上の方法や注意によつて、完全なる夫婦が成立すれば、始めて新家庭が出来るのである。

◎主婦の職任

夫婦家を同くして新家庭を組織した以上は、主婦として重要な任務に就き、家政の整理をしなければならぬ。由つてどうして婦人が天職と心得て齊家の任務に就かなければならぬかといふことについて一言して置きたい。

さて男子と女子とは外形に於て異つてゐることは頗る明瞭であるが、體質の組織に於ても著しく異つて居るものである。女子は第一脳髓の分量及び組織が男子よりも劣つてゐる。血液の成分が違つてゐる。其の他脈搏も違つてゐれば、筋肉及び骨格の組織まで違つてゐる。故に男子は極端な労働にまで堪へられるが、女子はさうはいかない。

次に精神状態に於いても、男子は應用の力や組織的能力が女子の上にある。従つて女子は保守的になるのである。かくの如く種々相違の點から、女子は家政整理の適任者である。故に交際社會のために浮身をやつ婦人の家庭は、甚だ紊亂して殆んどお話にはならない。一家の總括は無論家長であるけれども、これが爲に顧問となつて家内萬般の整理をするのは内務官の様である。金錢出納など財政の整理については大藏長官の如く、親族朋友に對する

◎家族と親族

交際は外交官の如くである。其の他子女を教育し、個人衛生は勿論公衆衛生にも注意をしなければならぬ。舅姑に對する奉養もおろそかにしてはならないし、かくの如く衣食住萬般の整理は中々容易の事ではないから、如何なる困難に遭遇しても、勇往邁進して家庭本來の目的を達することに努力しなければならぬ。故に主婦としての修養は十分に積まなければ、其の責任を果すといふことは到底不可能である。それで餘り保守的に傾くと知識收得の道がなくなるし、外出がはげしくなれば家事の整理はおろそかになる。けれども見聞を廣くするといふ事は修養の一端であるから、事情が許せば旅行も訪問もしなければならぬ。新聞の論說經濟事項などを讀むのも、其の他家政や裁縫や理科に關する書物を讀むのも、修養の一端である。又全時に細心の注意力を養成する事も必要である。かくして修養を積み、齊家に要する綱領を心得て處理經營していつたなら、必ず平和なる家庭を造り、從順なる國民となる事が出来るのである。

家族及び親族の一門は互に親睦結合して、其の繁榮を計らなければならぬ。これは祖先の遺

心掛けなければならぬ。夫をして成功せしめるのも、内助の如何にあるのである。これには夫に對して極めて厚い同情が必要である。終日惡戰苦闘を續けて家へ歸つても、妻の同情がなかつたならば、夫は慰藉の途がないのである。故に極めて厚い同情は二たび勇氣を鼓して奮闘を續けていく様になるのである。尙一つ敬愛の念がなければならぬ。若し敬愛の念がないと、狎れる様になるから夫婦の秩序が亂れてしまふものである。次ぎに舅姑に對しては勉めて自我の念を押へて、恭順でなければならぬ。家によつては姑が權威を振つて、主婦が主婦たる權威のないのがある。爲に互に憎惡の念が出て來て、心に刃を磨く様な事がある。これは新舊思想の衝突に基くものであるが、唯從順なのが一家の平和には、最も有効である。其の他夫の兄弟姉妹に對しても、常に其の勞の絶えぬものであるが、自分の骨肉と思つて、之に對する道を盡して尙十分でなかつたならば、自省して飽くまで修養を積まなければならぬことである。

前にも述べた通り親族は一門の同種族團體であるから、平和親交は最も大切なる事である。親族が互に争つて反目して居るのは、往々世間にある事であるが、同種族の勢力擴張の意義からいへば、甚だ怪しからぬ事である。常に緩急相助けて寒暑共に來往し、疎情のない様に心

掛けなければならぬ。年始歳暮の贈り物は勿論、平時でも珍珠佳肴は一半を贈つて、親交を維持して行かなければならぬ。

かくの如く家族に對して其の道を盡し、親族に對して其道を盡せば、家門の團結が鞏固になつて、益々繁榮の基を致すのである。かく子孫が相傳へて親睦結合していつたならば、一門の幸福であるばかりではない、延いて國家の富強繁榮を來す所以である。

◎整容に就て

婦人が容儀を整へる目的は、天生の麗質をほこる爲に徒らに粉黛を施すのではない。夫を始め家族のものに對する舉止を端正にする上からいつても、又來客に接する禮儀の上からいつても、是非行はなければならぬ身だしなみである。髪は散らしてゐる。衣服はだらしなくない。故に内は自分の心を正すと共に、外は容儀を整へて品位を高潔にする様に勉めなければならぬ。天然の美を保つ爲には身體の健康が必要である。身體の健康は清潔に原因する處が多いから、清潔は天生の美を發揮する化粧法の一つである。

(一)皮膚 皮膚は人體の内部を保護し、體温を調節するものであつて、内部の老廢分を排泄する用を爲すものである。脂肪や外部の塵などが混じて、垢染るものである。あまり垢が溜ると體温の調節を害して、且品格を下げるものである。故に入浴によつて常に清潔を保つやうにせなければならぬ。

冷水浴や冷水摩擦は皮膚を美麗にするし、又健全にさせるものであるから、暑中から始めて絶えずやる様にしたらよからうと思ふ。

石鹼は脂肪を分解して垢を除去するものであるが、アルカリ性の多いのはよくない。酒精に溶して透明なのがよいのである。

皮膚を洗ふには糠がよい、洗粉も吟味して上等のものを使用するがよい。冬季になつてひび・しもやけ・あかぎれなどを豫防するに左の藥を塗るがよろしい。

グリセリン 五瓦

酒 精 五瓦

苛性加里 一瓦

蒸 餾 水 二〇瓦

香 水 若干

これはベルツ水といつて白粉下にもなる。

白粉は鉛を多量に含有して居るものであるから、多く用ゐると皮膚を害するものである。故に之を用ゐるには淡く上品に塗るがよろしい。あまり目立たないのがよいのである。併し學生時代には殆ど之を必要としない。

(二)頭髮 折々洗つて清潔にしなければならぬ。營養が不足すると毛根を養ふことが出來ないから、薄くなつて艶がなくなる。故に身體の營養を十分にすると共に、良い油を少量に用ゐて、上品な形に結ぶがよい。髮結は甚だ忌むべき風習をもつてゐるから、出入させない方がよろしい。

(三)手指 清潔を保つ爲に爪を延さぬこと。指輪は上品なものを用ゐて、數多くはめない様にする。

(四)齒 は毎朝及食後に含嗽して清潔にしないと、齒がわるくなつて口中が臭くなるものがある。

態々齒をかい黄金などを入れるものは、これは馬鹿の骨頂である。

(五)眼 眼鼻だちといつて、顔の代表をなすものである。眼がさえて活々としてゐないと、精神の作用が遅鈍に見える。毎朝硼酸水で清潔に洗ふがよろしい。次ぎに参考となるべき事一二を記して置く。

(一)毛の癖を直す法 頭髪をよく洗つて置いて、

グリセリン 四十匁 莞青丁幾 四十匁
 安母尼亞 五 匁 薔薇水 三十五匁
 アルコール 九十六匁

を混和して塗るのであるが、あとでよく洗はないと毒になる。

(二)縮れ毛を直す法 麻の葉と桑の葉とを煎じて常に洗へば縮れ毛を直すことが出来る。

(三)毛の抜けるのを防ぐ法 これは

シンコナ丁幾 一瓦 蓖麻子油 二瓦
 マンネンカウ丁幾 一瓦 ジャボラン丁幾 一瓦

を混和したものを用ゐて塗るがよい。

(四)ふけを止める法 刷毛で頭をこすつて、次ぎに硼酸細末一匁を水に溶かして刷毛につけ

て頭部を摩擦するのである。最初の一週間は毎日一回、それから毎週二回位やれば頭垢がとれる。又

グリセリン 硼砂 樟腦 鹽酸加里 各一瓦
 を水に溶して毎夜ねる前に塗つてもよい。

(五)口の臭いのを直す法 楊枝で齒齦をよく洗ひ、次に五十倍の石炭酸二十滴と、酒精十瓦、水二〇〇瓦を混和した含嗽薬を、筆につけて齒齦に塗るのである。毎日三回位やれば齒齦が強固になつて、悪い臭氣がなくなるものである。

(六)ニキビソバカスの跡をとる法 ニキビは含有してゐるものを押し出して、毎朝三四十倍の熱い位の硼酸溶液に手拭を浸して熱いのをがまんして、顔を拭くと綺麗にとれる。ソバカスは外出する時は顔を成るべく洗はない様にして、夜はレモン汁を薄くつけて、クリームを用ゐると段々薄くなつて来る。

◎交際に就て

交際は見聞を廣めて智徳の發達には必要であるが、輕薄や虚飾の風に染つては困る、それに

ついで要件を少しく述べて見ようと思ふ。

交際はこれを小にしては一家隣人に過ぎないが、だんく範圍が擴まるについて、一群一國となる。従つて快樂を得る事にもなれば、知識の交換にもなる。時代後れの思想は、社會と共に進歩していく事が出来ないから、一家の整理についても迂遠となる譯である。

(一)交際の方法 信義を第一として同情を深くして行かなければならぬ。つまり腰を低くして謙遜して、高慢な風を見せないのである。さうかといつて馬鹿にされる様でも困るから、相當の威嚴がなくてはならないのである。併し又これがなか／＼むづかしいもので、有り過ぐれば愛嬌がなくなり、人好きのせぬ事になるから、顔色を和けて言語動作は穩かにしなければならぬ。簡単に云へば親しみ易いが狎れ難い。其の人に接して居れば、穩やかな春風に接するが如く感ずる様にしなければならぬのである。

言語は最も明瞭に、而も何處までも莊重でなければならぬ。早口であつたり、騒々しかつたり、或は多辯であると、人品が卑しく見えるばかりでなく、談話の要領を得ないで、其が爲めに間違ひを起すことがある。相手が話して居る時は、假令其の話に興味がなくとも、氣のない返事をしたりするのは、甚だ宜しくない事である。又相手が話を續けて居る中は

決して其の腰を折つたりしてはならぬ。

用談を帯びた來客があつたら、無論早く其の用談を聞取る事が大切である。父なり夫なりの代理て人に接する時は、其の代理である事を告げて、夫なり、自分なりの意見を混同しない様にしなければならぬ。

人の一身に關して批評するとか、或は野卑なる事項は、絶対に話柄とすべからざる事である。

(二)訪問の心得 人を尋ねる場合は、必ず身體や衣服を清潔にして、肌衣足袋等は汚れてゐない様にしなければならぬ。先方が身分の高い人であるなら、それ相應な禮儀に叶つた服装をしなければならぬが、徒らに盛裝するのは奢つてゐるやうでよくない。時刻は食事時や早朝夜陰はよくない。先方が忙がしい時か、或は不在であつたら氣轉をさかして早々立歸るべきである。又目出度事があつたら早く喜びを述べなければならぬ。凶事に就ては訪問の機を誤らぬ様にすることが大切である。

(三)接客の心得 見舞がてらの客、其の他用談の客、すべて眞情を以て迎へなければならぬ。身分の高い人は勿論、同輩の人でも自分で出迎へるが禮儀である。止むを得ない場合は座

敷へ通してから、出て逢つても差支へがない。茶・菓子・煙草盆・火鉢・團扇などは式の通り手早く勤めなければならぬ。客の歸る時は無論玄關まで送つて、携帶品の紛失や間違ひのない様に注意しなければならぬ。

(四)公會及宴席 招待を受けた場合は成るべく都合して行くが禮儀である。出席の有無は必ず返答すべきものである。式場へ出る場合には必ず禮裝すべきである。

式場にある場合には、扇使をしたり、隣席の人と囁いたりしてはならぬ。まして葬式などの場合は極めて靜肅にして、先方の家族の悲しみに同情を表さなければならぬ事である。祝賀會や園遊會は、矢張禮裝するが普通であるが、時と場合とによつて晴衣でも差支がない事もある。座席の順序などは主人や幹事の差圖に従へばよろしい。

すべて如何なる場合でも、定まつた時間に後れぬ様にするは最も大切な事である。

(五)書信の心得 談話の代りに文字を使用するのであるから、平易で明瞭でなければならぬ。又實用向の手紙は達意といふことを主眼としなければならぬ。すべて手紙は人がこれに接して、氣持のよい様にしなければならぬものであるから、雅言や術語を用ゐて意義が解されない様な事では、手紙の効力は少しもないものである。人から手紙を請取つた場合

は必ず返書を出すべきである。

(六)贈物及返禮の心得 交際上一の儀式であつて、相互間の情愛を示すものであるから、粗漏には出来ない。眞心を主として先方の嗜好を考へなければならぬ。喜びの場合の贈り物は、喜びを記念とする様なものを選ぶがよいのである。旅行する人には成るべく容積の小さいものがよい。病氣見舞は其の人の嗜好に叶つたもので、口に入れても差支がない食物か、繪葉書か花などがよい。火災などに罹つた人には、衣服なり家具なりがよろしい。返禮は餘り目立つて返禮らしく思はれるはよくない。贈られた品物よりは少し劣つた物がよろしい。

◎貯金及保險に就て

〔貯金〕 貯金に關して注意要件を述べて置かう。

(一)郵便貯金

一冊の通帳は全國の郵便局に通用すること。

郵便官署に證券の保管を委託すれば水火盜難の患がない。

貯金及保險に就て

貯金及保
險に就て

貯金

證券の利子・償還金・割増金・賣却代金は其の都度直に郵便貯金に組入れられるから、何等の手数がない。

(イ)預入額制限 一度の預入額 金十錢以上

預入金総額 金一千圓迄

(ロ)切手貯金 郵便局で交付する切手臺紙に、五厘・一錢・一錢五厘・二錢・三錢の切手を貼付して郵便局に差出して通帳に記入を受けるもので、一人一ヶ月一圓まで預入する事が出来る。

(ハ)利子 毎年三月三十一日を區切つて計算し元金に加入するので、利率年四分二厘。

(ニ)拂戻

(1)一部拂戻 五十錢以上残して置く事。

十錢未満の端數及元金に加へない利子は拂戻の請求が出来ない。

(2)即時拂戻 預金の記入をした郵便局に其の預金の即時拂を請求する事が出来る。

又豫め郵便貯金局又は同支局で現在高の證明を受けて置くとその貯金現在高に付て何れの郵便局でも即時拂の請求が出来る。

(3)即時拂金額制限 一日金五十圓以内 一ヶ月總額二百圓まで

(4)特別即時拂戻 郵便局で特別即時拂の承認を受けて置く時は、金額に制限なく何時にても貯金の即時拂を請求する事が出来る。

(5)局待拂 拂戻金額に制限なく、又豫め現在高の證明を受けなくても、受持貯金局に屬してゐる貯金を即時に拂戻が出来る方法で、現今では遞信省構内郵便局に限りて扱つてゐる。

(6)非常拂 天災其他非常の場合に際して、其災害地の郵便局で特別の取扱をするもので、拂戻金額及取扱時間に制限がない。又通帳印形等を亡失した者に對しては、無料電報で郵便貯金局又は同支局に照會をした上即時現金を拂戻するのである。

貯金利子積算表

毎月預け入れる時は

年次金額	毎月十錢づゝ	毎月五十錢づゝ	毎月一圓づゝ
初年 目	一、二二〇	六、一一〇	一、二、二三〇
五年 日	六、六二〇	三三、二二〇	六六、四八〇

貯金及保險に就て

一度預けた元金を其の儘据えて置く時は

年次	金額	拾圓預け置きば	五十圓	百圓
初年 年 日	一〇、三八〇	五一、九二〇	一〇三、八五〇	
五年 年 日	一二、二二〇	六一、一七〇	一二二、四〇〇	
十年 年 日	一四、九八〇	七五、一〇〇	一五〇、三二〇	
十五年 年 日	一八、三六〇	九二、二二〇	一八四、六二〇	
二十年 年 日	二二、五一〇	一一三、二六〇	二二六、七四〇	
二十五年 年 日	二七、六二〇	一三九、一〇〇	二七八、五〇〇	
三十年 年 日	三三、八九〇	一七〇、八四〇	三四二、〇七〇	
十年 日	一四、七五〇	七四、〇二〇	一四八、一二〇	
十五年 日	二四、七四〇	一二四、一四〇	二四八、四三〇	
二十年 日	三七、〇一〇	一八五、七一〇	三七一、六五〇	
二十五年 日	五二、〇八〇	二六一、三五〇	五二三、〇〇〇	
三十年 日	七〇、五八〇	三五四、二六〇	七〇八、九二〇	

(二) 銀行預金

(イ) 當座預金 何時でも預入が出来て、何時でも全部又は一部戻が出来る。

(ロ) 特別當座 期間を定めるのではないが、出入が頻繁でないから、利子は當座に比べて稍高い。これも預入拂戻隨時である。

(ハ) 貯蓄預金 如何なる零碎な金でも預入出来るが利子は低廉である。併し預入引出共に簡単である。

(ニ) 定期預金 一定の期間内預入するもので、其の間預金は引出さないものである。であるから利子も高い。

(ホ) 養老・嫁資・修學・商工資の貯金 これは幾年かの後に纏つた金を請取る爲めに月掛或は年掛にして、一定の金を預入するのである。

(ヘ) 日掛貯金 五錢とか十錢とか毎日貯金函に入れて、一ヶ月分を毎月一度銀行に持参すれば、三年間とか、五年間とかの約束で、利子を付して元利金を拂戻するのである。

毎日五錢

元利拂戻金

五九、一一〇

三年間 毎日十錢

同

一一八、二三〇

貯金及保険に就て

保險

【保險】 保險について、

(一)損害保險 火災・運送・海上・信用・家畜等の保險であつて、保險契約者は保險の期間を契約して、契約した掛金を一時若くは數回に拂込を爲すものであつて、事故があつた時に保險金を支拂ふものである。

(二)生命保險 終身・養老・徴兵・婚資・教育資金などの保險がある。此保險料の拂込方法は、一時と、有限と、終身との三種があつて、どの方法でも被保險者が死亡する時は一定の金額を支拂ふのである。

(イ)養老保險 保險契約の満期に達した時保險金を支拂ふものであるが、萬一其の以前に

毎 日 五 十 錢	同	五九一、一八〇
	同	一一八二、三六〇
毎 日 一 圓	同	一〇三、六八〇
毎 日 五 錢	元利拂戻金	一〇三、六八〇
同 十 錢	同	二〇七、三六〇
同 五 十 錢	同	一〇三六、八一〇
同 一 圓	同	二〇七三、六三〇

被保險者が死亡した時は何時でも、保險金を支拂ふものである。

(ロ)終身保險 被保險者が死亡した時は、何時でも保險金を支拂ふものである。

(ハ)徴兵・婚資・教育保險 各能く似たもので徴兵保險は徴兵に出た時、婚資保險は婚嫁した時、教育資金は男女に係らず、契約した期限に達した時、保險料を支拂ふものである。併し其の期間内に被保險者が死亡すれば、保險料を支拂ふのである。

養老保險に就て拂込料金の一例を示すと、

年 齡	十 年 満 期		二 十 年 満 期		三 十 年 満 期	
	毎 年 拂	半 年 拂	毎 年 拂	半 年 拂	毎 年 拂	半 年 拂
十一年	一〇四、四二	五四、三〇	四七、七四	二四、八二	三〇、二三	一五、七二
十六年	一〇四、六一	五四、四〇	四八、〇三	二四、八九	三〇、六四	一五、九三
二十一年	一〇四、八七	五四、五三	四八、四四	二五、一九	三一、二二	一六、二三
二十六年	一〇五、二五	五四、七三	四八、九八	二五、四七	三一、〇五	一六、六七
三十一年	一〇五、七五	五四、九九	四九、七三	二五、八六	三三、二九	一七、三一

右の表は保險金一千圓に對して拂込む金高であつて、十一年から始めるものと、十六年から

貯金及保險に就て

始めるものとは、拂込金額が多くなつて来る。

◎電撃を受けたものゝ手當

電撃を受けたもの
の手當

雷電の振撃を受けて人事不省に陥つた者は、新鮮な空氣中に輸送して、人工呼吸を施すがよい。

電氣工業が盛になるに従つて、導線に觸れたりして危険に遭遇する事がある。かういふ場合は導線を斷つか、被害者を地から離すのである。或は家内の電燈の導線から感電した様な場合は、導線から離さなければならぬ。此の場合は直接身體に觸れないで、衣服、毛布、或は蒲團其の他硝子、陶器の如きものを、被害者の足の下にやるのである。被害者に觸れるのも前記の如き絶縁物を持つてやらなければならぬ。毛布などで被害者の身體を包んでしまつて觸れるのは差支ないのである。

◎非常時の心得

非常時の
心得

火事の起りたる時は、惶て騒がず、各分擔して防禦に務むべし。火既に室内に覆ひかゝる時

は、匍匐して出づべし、これ烟は上に揚り清氣は下に沈むものなればなり。まかせざればたとひ火に焼かれざるも、烟にむせびて死することあるなり。又かゝる時は手拭を濡して持つべし。烟の顔におほひかゝりたる時は顔を包み喉のかはさたる時の便に具ふ。火災にかゝつて立逃ぐ時は、紙手拭の類は手近き所にある限り持出づべし。大に便利を感ずるものなり。火災多き場所にては、土藏は十分堅牢に造りて、大切な物品は常にこれに藏め置くべし。火起れりと聞かば先づ第一に戸扉を閉ぢて目塗を命ずべし。其の目塗に充つべき泥土は冬季に向はゞ時々これを和して能くねり置くべし。調度を藏むべき土藏のなき家にては、殊に大切な品は手近き處に置き、至急の時に速かに持ち出さるゝやう、區分して置くべし。若し不在がちの人ならば己れに代るべきものに、大切な品の所在を示し置くべし。麻繩風呂敷の類は常に成るべく用意し置くべし。非常の時に必要のものなり。又至急にせまりて取出し難き場合は、漆器陶器の類は泉水あらば其の中に投じ置くべし。井も容易に引き揚げらるゝ深さならば其の中に投じ置くべし。衣服は一つの衣服を擴げ、其の中に細々しき物を入れて兩棲を兩袖に引き通して、棲の端を引結びて一包となすべし、物多く入りて且運搬にも便利なり。

近火にて風下にありたる時は、家財に目をつけずして身を脱るべし。財寶の爲に貴重の身を滅すは愚かなる事なり。家族を立ち退かしめ家財を運び出す時の手續きは、第一に老人小兒に然るべき人を添へて志す方に立退かしむべし。さて後財を出して積み置くべき場所を定め、其所には屈強にして正直なる人兩三人つけ置くべし。大切の品は手近に置きそれより運び出すべし。其の順序不整頓なるが爲に不用のものを運び出し、大切のものは烏有に歸せしむることあり。家の出口にも心知りたる人を配置し、見馴れぬ人の加勢にとて來たる時は、既にはこび終りたる旨を答へて、能く丁寧に謝して歸すべし。(この項下田氏著家政學による)

◎小兒の病後入浴につき

よく世間で入浴をさせたから、冷えない内にといつて、直ぐ床などをのべて寝かせてしまふが、これは却つて風邪にかゝり易いものである。故に病後に入浴させようと思つたら、一兩日前から外で遊ばせて見るので、若し格別變つた事がなければ、そこで入浴をさせるのである。湯からあがつたら、矢張一時間位遊ばせて、それから床に就かせるがよい。すべて入浴は午后一時から三時頃までが一番よいのである。

小兒の病後入浴につき

古メリヤスの利用

◎古メリヤスの利用

メリヤスの古襯衣は其の儘では用をしないが、二歳位から四五歳位までの小兒の足袋になる、足袋の古いのを一足解いて見ると形がわかるから、厚紙で形をとつて、メリヤスの強さうな所を形にはめて切り取つて造るのである。其の他哺乳兒の襪褌としてもまことに都合がよい。

◎吐血と咯血との別及び手當

吐血は食道か或は胃から出る血液であるから、暗赤色であつて凝固してゐる。これを手當するのには、病者の上半身を少し高い位置に安臥させて、水おちに冷罨法を施して、氷片を少量づゝ與へて安靜に保つのである。

咯血は過劇の勞働などをした時、肺臓から出血するので其の色鮮紅色で泡を混じてゐる。手當をするのには、衣服、帶其の他シャツなどを手速く靜に解いて、上半身を少し高い位置に安臥させて、心臓部に冷罨法を施して、冷水に少量の食鹽を入れて飲用させる。さうして安靜に保つのである。

吐血と咯血との別及び手當

耳に物の入った時の手當

◎耳に物の入った時の手當

指て出さうとすると、却つて奥に這入て仕舞ふものであるから、小さなものなら紙擦の先に膠か糊をつけて、其の物につけて置いて、少したつて引出すがよろしい。小さな蟲などである、胞麻油を少し入れて耳を傾けると、一所に出て来る。細い筆のちくを耳に入れて、それを口にふくんで、力を極めて吸ひながら引出すと、大抵なもののは出て来る。

◎物品の洗濯について

莫産柳行李の如く編んだものを、綺麗にするのには、生温い湯に、一握りの鹽を溶かし、硬いブラシにつけて強くするのである。

石膏製の裝飾品は片栗などの粉をとかした中に浸して取出し、乾いてから附着した粉を軽く拭きとるのである。印刷物の如きは、鹽水を灌げばよい。

緑物は揮發油で洗ふか、生の馬鈴薯をわさびおろして、すりくづして其の液で洗ひ、あとを清水で洗つて乾すとよいのである。

物品の洗濯について

冬季に於ける風呂の燃料

青色の織物は水に一握の剛を交ぜ、緑色のは酢を一匙、藍色のは水に珈琲、茶色は茶を少し混じて、すべて生玉子を割込んで洗ふがよろしい。

◎冬季に於ける風呂の燃料

次ぎに掲げた表は婦人の友といふ雑誌にあつたので、家庭に風呂をこしらへる人の参考になるから、此處に抄録する事とする。

材料	沸く時間	温度	冷める時間	温度	費した燃料	其價格	水の温度	備考
炭	十五分	攝氏二十度	水を加へた時	四十五度	七	六十一	十度	當日氣温五十度
	三十分	全三十度	一時間後	四十五度	百	錢六	十度	五十五度の湯の中に手桶四杯の水を入れ四十度にする
スクーコ	四十五分	全四十度	三時間後	四十三度	七	八	十度	四時間後火かすかに残る
	一時間	全五十五度	四時間後	四十一度	九	錢七	十度	當日氣温六十度
	三十分	全十四度	一時間後	四十一度	百	五	十度	水を入れたること全し
	四十五分	全二十度	二時間後	四十一度	九	錢七	十度	三時間後コークス全く絶
	一時間	全二十七度	三時間後	四十度	九	錢七	十度	三時間後コークス全く絶

耳に物の入った時の手當 物品の洗濯について 冬季に於ける風呂の燃料

薪		炭 石	
一時間半	全三十五度	一時間	全三十五度
二時間	全四十五度	二時間	全四十五度
二時間半	全五十五度	二時間半	全五十五度
十五分	全十二度	十五分	全十二度
三十分	全二十一度	三十分	全二十一度
四十五分	全二十八度	四十五分	全二十八度
一時間	全三十五度	一時間	全三十五度
一時間半	全四十五度	一時間半	全四十五度
二時間	全五十五度	二時間	全五十五度
二時間半	全六十五度	二時間半	全六十五度
水を加へた時	四十度	水を加へた時	四十度
一時間後	五十度	一時間後	五十度
二時間後	五十五度	二時間後	五十五度
三時間後	五十五度	三時間後	五十五度
四時間後	五十二度	四時間後	五十二度
一貫五匁	一貫五匁	一貫五匁	一貫五匁
六錢四厘	六錢四厘	六錢四厘	六錢四厘
十度	十度	十度	十度
火種は代價約一厘位の粉炭	火種は代價約一厘位の粉炭	火種は代價約一厘位の粉炭	火種は代價約一厘位の粉炭
當日氣温五十一度水を入れたること同じ	當日氣温五十一度水を入れたること同じ	當日氣温五十一度水を入れたること同じ	當日氣温五十一度水を入れたること同じ
二時間後上り湯六十度	二時間後上り湯六十度	二時間後上り湯六十度	二時間後上り湯六十度
四時間後上り湯七十度	四時間後上り湯七十度	四時間後上り湯七十度	四時間後上り湯七十度
火種コークスの時と全じ	火種コークスの時と全じ	火種コークスの時と全じ	火種コークスの時と全じ
當り氣温六十度水を加へたること同じ	當り氣温六十度水を加へたること同じ	當り氣温六十度水を加へたること同じ	當り氣温六十度水を加へたること同じ
薪は夏用たるものゝ二倍の束	薪は夏用たるものゝ二倍の束	薪は夏用たるものゝ二倍の束	薪は夏用たるものゝ二倍の束

◎西洋料理

西洋料理に就て

西洋料理は近來家庭でよほど用ゐるから、簡単な調理法を述べて見よう。

西洋料理に要する器具は

七輪、てんび、フライ鍋、ソース鍋、シチュ鍋、パイ皿、てつさう、金串、煉化、裏漉、敷笥、鐵鍋、蒸籠、大ナイフ、小ナイフ、泡立、珈琲煎器

【ビーフステーキ】 牛肉を適宜の大きさに切つて、棒でたゞいて鍋にヘットかバタを少し入れて、沸騰させた中へ入れ、食鹽と胡椒とをふりかけて、こすり焼にするのである。中まで焼き過ぎない様にして皿に盛る。すぐソースをかけて食べてもよし、又は鍋に残つた汁にメリケン粉を少し入れて水を加へ、食鹽を少し足して混ぜてどろどろにした汁を、焼肉の上に掛けるのである。

【ホークステーキ】 材料が豚である丈の差で、ビーフステーキと全じ様にするのである。

【ビーフカツレツ】 牛肉を適當の大きさに切つて、棒でたゞき、メリケン粉の中てころがして、玉子をよく溶いて鹽と胡椒とを少し混ぜた中に入れて、更にパン粉の中に入れて両面によくつけたら、ヘットを沸騰させた中に入れて揚げるのである。さうしてソースをかけるのである。

【ホークカツレツ】 豚を材料とする丈の差である。

ビーフステーキ

ホークステーキ
ビーフカツレツ

ホークカツレツ

チキンカツレツ

【チキンカツレツ】 材料を鶏肉にするのである。肉の切り工合をうまくして、あとはビーフとかはることがない。

ミートコ

【ミートコロツケー】 馬蹄薯の皮を剥いて茹でたら鉢でよくつぶして、凡そ其の半分位の牛

ロツケー

肉又は豚などを機械にかけて細くし、玉葱を細かに切つて残らず一諸に混ぜて、食鹽と胡椒とて味を付けてから、種々の形にこしらへる。さうしてメリケン粉の中にいれ、又玉子をよく溶した中に入れてパン粉を付けたら、ヘットで揚げるのである。

チキン
サンドライ
スコロ
ケー

【チキン、アンドライス、コロツケー】 米をスープで炊き、又別の鍋で鶏肉を小さく切つたのをスープで煮立たせ、これに玉子の白味の泡立つたのを入れて、これを前の飯の冷えたものの中に入れ、饅頭の様にして小さく結んで、玉子の黄味にころばしてそれへパン粉をつけて、ヘット又はバターで程よく揚げるのである。

ミート
ロール

【ミートロール】 牛肉を細かに切つて、玉葱を細かに切つたものを混ぜ、鹽と胡椒で味をつけて、メリケン粉或は玉子を少し入れて、丸く手にしたら、ヘットで揚げるのである。

ミート
オム
レツ

【ミートオムレツ】 肉と玉葱とを細かに切つて、食鹽と胡椒で味をつけたものを、バターのためて、バターを引いたフライ鍋に、玉子をよく泡立てたものを入れて、半熟に焼いた上へ前

ハムオム
レツ

の肉と玉葱とを置いて、柏餅の如くに折り合せて皿に盛るのである。

【ハムオムレツ】 材料がハムであるばかりで方法は前と同じである。

オイス
ター
オム
レツ

【オイスターオムレツ】 牡蠣をよく洗ひ、一寸煮て水分を取り、半分につけて前と同じ方法にするのである。

ハム
エツ
グス

【ハムエツグス】 フライ鍋を火に掛けて、ヘットを引いた上へハムを薄く切つてのせる。其の上へ玉子をわつて入れる、鍋に蓋をして白味がかたまつたら、皿に盛るのである。

ロール
キ
ヤベツ

【ロールキヤベツ】 肉を細かに切つて丸く細長くしたものを、キヤベツの白い葉で包み、鍋に入れて生スープを上にかぶるほど入れて、文火で半時間ほど煮る。別にフライ鍋で、ヘットかバターを煮て溶し、メリケン粉を入れて狐色になるまでいたため、それへ牛乳を入れてよくかきまはしたら、前の鍋の中へ入れ、食鹽胡椒で味をつけて皿に盛るのである。

メン
チ
ボ
ール

【メンチボール】 牛又は豚肉を細かにきつて、玉葱を細かにきつたものを混ぜ、玉子をといてよくまぶして、鹽と胡椒を加へて適宜の形につくり、メリケン粉を振り掛け、バターを煮立たせたフライ鍋に入れて、両面を焼きスープを少し加へて火がとまつたら皿に盛るのである。

ハム
サラ

【ハムサラダ】 ハムを薄く切つて、サラダを取合せたものに、メヨネソースを掛けるの

ライスカ
レ

である。このソースは玉子の黄味に食鹽と胡椒とを加へて、オリーブ油を少しづつ、さして攪拌する。さうして酢を同じ様に加へるのである。

【ライスカレー】 牛肉を二三分の賽の目に切り、玉葱人參の皮を剥いてよく洗つたら、矢張賽の目にきつて置く。生薑や柚子をよく洗つてこれを賽の目に切つて置く。

フライ鍋にバターを入れて煙るほど熱した時、肉を入れてかきまぜながらいためる。それからカレー粉を加へてよく交ぜ、次ぎにメリケン粉を入れて、焦げない様に注意して掻き交ぜ、熱湯を五合許入れて混ぜながら沸騰させるとかすが浮上るから、匙で之をすくひ捨て、深鍋に入れるのである。さうして人參・玉葱・生薑・カレーレンジ・柚子などを入れてから、鍋に蓋をして文火で一時間許煮詰め、半分位に煮詰つた時鹽で味をつけて、熱い飯にかけて食膳に供するのである。

女學校 家事家政教材集成補遺 畢

大正四年一月廿八日印刷
大正四年二月五日發行

(小學校家事家政教材集成)
(定價 金壹圓六十錢)

著者 家事教授研究會

東京市京橋區南鍋町一丁目二番地

發行者 草村松雄

東京市京橋區西紺屋町廿七番地

印刷者 佐久間衡治

東京市京橋區西紺屋町廿七番地

印刷所 株式會社 秀英舍



東京市京橋區南鍋町一丁目二番地

發兌元 隆文館

振替口座東京 八五三番
電話新橋 一一七七八番

文學士

青木武助先生編著

地圖及插畫數百面

大日本歴史集成

菊判綿紙數四千頁
總布綴箱入美本
上卷金二圓八十錢
中卷金三圓
下卷金三圓五十錢
小包料各金十六錢

史歴大の廉最新最精最

上卷 七版
中卷 六版
下卷 近刊

(東京朝日新聞曰く) 自己の識見を特す意見を維ふるを主とせず、廣く新研究の結果を經り比較的詳細に國史を叙したるを本書の特色とす……(國民新聞曰く)……普通歴史の具備すべき資格は悉く之を備へて居る言つて可いが其上に本書の特色とすべき種々の注意の行届いたものがある……(時事新報曰く)……此の精密なる用意を以て確説を本文として之に戰記物語等の國民的說話を加へ、普通の参考書には絶無なる個人の傳記及び古來の異説大家の論證を掲げ地名は現在の市町村名を注し其他に關する記事は添へ、詩歌俳句或は謡曲淨瑠璃等を引用して具に事實の批判を究らし上卷のみにて優に千二百頁を費せり……(中央新聞曰く)……實に匪然たる大冊なるも一の贅文字無く前後の對照索引の整然たる眞に史界空前の好著と云ふべく著者の勞を多とせざるを共に此の名著を發布せる書肆の勞をも多とせざるべからず。(萬朝報曰く)……丁寧親切中小學教師の参考書として絶好の物たるを共に家庭の寶典とするに足る。(東京日々新聞曰く)……本書一冊は以て萬卷の史書を備ふるの勞と費用とを償ふに足るべし眞に大日本歴史のエンサイクロペディアと云ふべきなり。(雜誌教育の實際曰く)本書は青木文學士苦心の大作にして……又初學者の便を圖りすべし諸大家の公論に基きて之を叙述し徒らに舊説に拘泥し若くは妄りに私説を立つるが如きことを避けたり……(中學世界曰く)……猶ほ卷末に明治十八年以降、大正元年迄の中等教員檢定試験日本資料の問題が添へてある、挿畫も相應にあり、近來珍らしい親切な書である……(實業の日本曰く)著者七年の没頭研究に成れる本書は實に我が集成界の權輿として推奨に値すべし……

熊本縣師範學校 教諭

角田政治先生著

外國地理集成

色特の書本

- (一) 従來の地理書の最大缺點たる記述の相互孤立なるを避け自然と人文即ち動的地理の事情と靜的事實との連絡を有機的に開明す。
- (二) 最近の調査の統計を各國の産業、産物乃至交通等の大勢變遷を委しく語り我が國の關係を立地に明ならしむ。
- (三) 各國の人情風俗の異同、人種の興廢を説きて其の盛衰隆替の事情の原由を究め、最も完全なる人文史を作る。
- (四) 徹底的に尾見の地に於ては、愛國心の涵養に努む。
- (五) 趣味的材料を多く採りて愉快の裡に知識を收得せしむ。
- (六) 各章末に「研究上の注意」を記し、大體の眼目を教授上又は研究上の方針を極めて親切に懇示す。
- (七) 参考資料を豊富に世界地理研究上の一切の事項を網羅したれば、至便の地理辭典たり。
- (八) 最近の地理辭典の變動亦悉く本書に就て識得せらる。

上卷 九版

下卷 八版

菊判綿紙數千七百頁
總布綴堅牢美本
上卷 金壹圓八十錢
下卷 金壹圓五十錢
小包料各金拾六錢

三色版口繪一葉、寫眞版口繪數葉、組込地圖及風景風俗木版寫眞版數十葉、紙數八百餘頁、菊判綿紙、紙數八百餘頁、入製本高麗堅牢頗美文字

角田政治先生著

最新大日本地理集成

上卷 貳圓
下卷 貳圓
總計 肆圓
小包料各金拾六錢

理學博士 三宅驥一先生 共譯
理學博士 草野俊助先生 共譯

本書の圖版七百

（餘簡は凡て原書出版會社（獨逸）に託して複製せしめたるものなれば日本に於て複製せる者と同視すべからず）

ブストラス ブルガー 植物學

全四冊

原書者省儉及自筆序文入
上卷第一冊 金一圓七十錢
下卷第一冊 金一圓八十錢
送料各金十 二 錢

本書は獨逸植物學界の泰斗ブストラスブルガー外三氏が大學在職中多年講義の經驗に基き、同國大學用教科書として編纂されしものにして、而かも形態、解剖、生理、分類の各部門に互り、記述の繁簡宜しきを得たるもの本書の如きは稀なるを以て、一八九四年初刊以來廣く世に歡迎せられ、殆ど逐年増補改訂して今や第十二版の公刊を見るに至り遂に英米其他の諸國に翻譯せられ、世界共通の最良教科書たるに至れり、而して三宅博士は親しくス氏の下にありて植物學を専攻せられたる人、歸朝の記念として此の絶好唯一の書を翻し來り、數年間の努力を之に注ぎて遂に本書を譯出されたり、邦語の植物書敢て少きにあらざるも、本書の如きは蓋し他に見る可らざる權威書也。

上卷第一冊 形態學
上卷第二冊 生理學
下卷第一冊 隱花植物
下卷第二冊 顯花植物

（時事新報曰く）……譯文明快にして委曲を盡せる紙頁の良好にして印刷の鮮明なる挿畫の豊富にして裝帖の善美なる斯界の名著を紹介するに此の遺憾なし……（讀賣新聞曰く）……中學教育程度以上の學生及び獨習者は勿論斯學に係るものは齊しく益を得るべきが大であらう斯の名著が邦文に紹介されることは我學界の一大慶事とすなげればならぬ……（植物學雜誌曰く）……本邦又其譯本を得て學術的植物學の普及に資せんこと夙に吾人の希望なりしが今や三宅草野兩博士の手になれる本書の公刊を見るに至りしは頗る欣喜すべし……

東京高等工業學校
教授 理學士

水津嘉之一郎先生著

全二冊

理論 最新化學集成

菊判布綴箱入
總紙數約千六百頁
上卷金三圓三十錢
下卷金
小包料金拾六錢

上卷には、第一編化學原論、第二編無機化學、第三編有機化學の三編を收め。
下卷には、應用化學以下を收めて化學に關する一切の項目を殘る所なく網羅す。

本書の
獨擅的
特色

- (一) 紙數一千六百頁未だ驚くに足らず、其内容の充實せる、まさに他書の五千頁乃至六千頁分の容量を此紙數中に收めたるに至りて、一見直に驚かざるべし。
- (二) 化學に關するあらゆる知識を網羅し盡して、而かも記述的確、説明親切懇到を極め、初學者の入門案內書たると共に、専門學者の備忘録參考書として亦絶好の良書なり。
- (三) 第一編化學原論のみにて、一八〇頁を費し、其概念と趣味の享受に著者獨得の技術を示せり。
- (四) 從來の邦文の化學者には未だ絕對にこれなき最近の化學新説、新發見の事項を悉く網羅したり、例へば「電離説」「電子論」の如き「元素崩壊説」の如き、又ラジウム、ニトンの如き、空氣の量の如き、事項の細大を問はず、本書は眞に最新の名に背かず。
- (五) 化學方程式、計算法の如き最も詳密且つ之を圖解し、又初學者の爲に其の「記憶法」を説く。
- (六) 原理解を説くと共に、其實驗の注意事項を殊に詳密に説けり。
- (七) 圖版を挿入すること數百面、小中學の備品なる諸器械の使用法は本書により直ちに修得し得べし。
- (八) 下卷には最も細密なる索引を附したれば、本書に化學の一大辭典たり得べし。

ラヂウムの発見は何が故に驚天動地の一大事件なるか
之を醫療上に用ひるが如きは僅に其一方面の用なるのみ

東京高等工業學士水津嘉之一郎先生著

再版 ラヂウム講話

菊版 布綴
金壹圓貳拾錢
小包料十二錢

圖版三十餘面挿入 キュリー夫婦肖像 口繪(コロタイプ刷)

目次

- 緒論 X線とラヂウム ● ベクエレル放射線とラヂウム ● ラヂウムの発見とキュリー夫人 ● ラヂウムの製法 ● 金屬ラヂウムと其製法 ● 日本のラヂウム ● 鑛石 ● ラヂウムは地球上に到る處にあり ● ラヂウム放射線と電子 ● エマナチオン ● 元素の崩壊 ● 熱源としてのラヂウム ● 太陽及地球の壽命とラヂウム ● ラヂウムの理學的及生理的作用 ● ラヂウムの醫療的效果 ● ラヂウムと温泉 ● ラヂウムの測定法と單位 ● ラヂウムと農藝

● 讀實新聞(土岐良果氏)曰 今僕は僕の最近の知識態のためにはラヂウムについての新著を讀んでおます。この世界の偉大な発見をキュリー夫人のする迄に、各國の學者の苦心し努力したことも寔に非常なものだと思ひますが、さてそれが愈々発見されてそれを採集するものなるに現に一昨年の境地利ラヂウム會社の産額がたつた二五半、全世界における産額が一年間にたつた三五内外だといふではありませんか。巨大な原礦から爪のアカほどのこの貴重な元素を採集する艱難な科學的態度、僕は原礦のやうな僕等の浮々した日常の中からは、ラヂウムのやうな、眞の生活をつかまうとすることに對して、まだ、あまりに安易な、かげんな態度であることを實に愧かしく思ひます。

● 東京毎夕新聞曰 近代の理化學界に一大革命を齎せざるラヂウム電子エマナチオン等に就き理論應用の兩方面に互り発見の當初より最近に到る研究の結果を一緒論二X線とラヂウム三ベクエレル放射線とラヂウム四ラヂウムの発見とキュリー夫人五ラヂウム製法六金屬ラヂウムと其製法七日本のラヂウム鑛石八ラヂウムは地球上に到る處に在り九ラヂウム放射線と電子十エマナチオン十一元素の崩壊十二熱源としてのラヂウム十三太陽及地球の壽命とラヂウム附月の餘命十四ラヂウムの理學的及生理的作用十五ラヂウムの醫療的效果十六ラヂウムと温泉十七ラヂウムの測定法と單位十八ラヂウムと農藝の各章に分ちて講述せり行文平易而も脚本を讀むが如き興味あり科學的素養を有せざる者にもラヂウムの秘密と力を十分に會得せしむ殊に挿畫の豊富なるこのみを一瞥するも以てラヂウムの大體を知るに足らん

● 都新聞曰 巾幗博士によりて発見されたラヂウムは世界の一大驚異にして且つ科學界の一大革命である、今や學者の實驗室から世に現はれて神泉の司となり萬病の惡魔を攘ひ靈効測るべからざるものとなつた水津理學士此の著はラヂウム、電子、エマナチオン等に就きて理論と應用との兩方面に互り、発見當時より最近に至る研究結果を詳叙し、ラヂウムの語る秘密と其の偉大なる力を理化學の素養なき人にも會得せらるゝやうものしたるもの行文平易にして親切殊に挿畫の豊富なるは多きすべし

● 時事新報曰 理學界の進歩發達は今や驚く許りにてラヂウム、電子、エマナチオン等の発見は三千年來疑問の裡に葬られたる宇宙進化の秘密も容易く闡明せんとする有様也抑も

ラヂウムの発見は今より約十七年前の事に屬し爾來西學者の研究大いに進み今日に於ては何人も其名を知らざる無きも其性質製法、效用、及び作用等に就きては之を審かにする人極めて寡なし此際、當り新學に造詣深き著者が明快透徹の理解を披瀝して本書を成す用語頗る平易簡解飽くまで丁寧學者と素人との間には何人にも容易に了解せる可し新文明に後れざらんとする人は一刻を争つても本書を讀んで見るの必要あり

● 東京日々新聞曰 ラヂウム、電子、エマナチオン等に就き理論並に應用の兩方面に互り発見の當初より最近に到る研究の結果を極めて平易に挿畫を豊富にして全編興味を以て通讀し得らるゝやう編述せるものなりラヂウムに關する一般の智識を養ふに恰好の参考書なり

● 東京朝日新聞曰 ラヂウムと云ふ聲は最近三歳の童子も口にするに至れるもラヂウムの何物たる事を知るものは稀なり本書は之を平易に講述せるものにて家庭に於ても夏季の讀物として極めて良書也

社會德育及教化の研究

菊總定送
判布價料
五綴金
百箱二十
頁入圓錢

中足
文島立合
學力栗
博造園
士先著
生

著者の序に曰く

物質的文明は人の容易に模倣し得る所なりと雖も、精神的文明は之に反し、決して一朝一夕に他の模倣し得るものにあらず、蓋し其の由來する所遠くして且つ深く、而も國民精神の根柢に其の基礎を据ゆるを以てなり。思ふに我國今代の文明は、物質、精神兩方面に互り、之を泰西文物の輸入に待ちしもの少からずと雖も、然も精神的文明に至りては、元來我に其の素養あり國民久しく其の德育の下に訓練せられ、以て明治維新に及びしものなれば、維新後の泰西思想の注入と共に漸次調和折衷せられて、よく今日の効果を見るに至りしものなるべし、されば我國精神的文明の經過を研究する者は、また須らく近世德育の由來なる所を對尋せざる可からざるなり。予置此の見地より夙に此等德育方面の研究を必要視し、之を懲懲する所あり多少著者に助言する所ありしが、幸にして漸く其の梗概を叙し得たるを耳にし、國家の爲に慶賀して措かざるなり更に進んで諸方面より影響したる此種の研究に従事し、以て本書の足らざるを補ひ、又誤まれるを正し、かくて此等研究を大成せんことは予輩の希望して止まざる所なり、本書成るに當り一言を卷首に加へて序と爲す。

章を分つ十五、節九十三、具さに其述べんとする所を盡して遺憾なし。而して本書は主として徳川時代の素朴醇雅の社會教育法を説けるもの、當時の實例を擧ぐることも最も詳密、之を觀れば、其自治的精神は却つて今時の昔時に劣るの感あり、而かも今や東京市の當局者は、卒先して徳川時代の自治制を復活せんとするの意ありと聞く。本書の出づも亦時なるかな。學校社會家庭の教育の任にあるもの必ず一讀せよ。

京都帝國大學
教授

法學博士 市村光惠先生著

國家及國民論

菊判四百三十頁
總布綴箱入
金壹圓九拾錢
小包料十二錢

個人は社會に對して固より分數的單位に非すと雖も「國家」てふ一語は吾人の生活の上に永久絶大の權威を語る者ならざる可らず、一國家の形成せらるゝや、深遠の意義と必然の科學的根據とあり、殊に世界に冠絶せる國家を有する我日本の如きに至りては、即ち之を根本の論より觀て更に別個の立論なかる可らず、我が國法學の泰斗市村先生、特に本會の爲に此一著を成さる、徒に論議の爲に論議するが如き乾燥枯淡のものに非ず、其據る處や遠大至微、其述ぶる所や平明透徹、而して時に興味の爲に熱せられんとするものあり。寔に時代劃切の一大著述也。

注意
是れ『國民時務叢書』中の一編として刊行せられたるもの、以下順次大家の著書を刊行すべく、別に會員配布の大特典あり、詳細御照會を乞ふ

八版
出來

人生 教育 エミール

ルツソー
肖像
傳像
及
入

ルツソー原著

三浦關造先生譯

菊判五百頁 總布綴箱入三上知治、伯意、美本
全一册 各書四六十頁 小包料十二錢

▲讀賣新聞曰く、個性のない人間ほど弱いものはない

個性のない者は決して人格者になることは出来ない。譯者がこの大冊を選んで翻譯するに至つた動機はおもしろい。譯者の自序による。ある中學校で十餘圓の安月給の書記を募集した處が忽ち百二十人の応募者があつた。それが皆血氣盛りの青年である。こんな憐れむべき恐るべき現象は那邊に其禍根を潜めてゐるか。先づ小學校を參觀したら、見事にそれを發見した。習字を教へられるにも児童は一劃一點只教師の口先ばかりに動かされて自分で工風して書かうとしない。一事が萬事、現今の教育は要するに十分に個性の要求に應じ個性の發揮に努めないものである。ルツソーのエミールはこんな教育の弊弊を救ふに最も尊重すべき傑作である。これは論ずる迄もない。一代の天才が三年の日子を費して、その血と肉とを注ぎ込み削り込んだこの名篇は疾く日本に譯さるべきものにして譯されなかつた。最近その『懺悔録』の全譯も紹介されたが、時を隔ててすぐ又此エミールを讀むことのできたのは喜ぶべきことである。吾人は三浦氏の見識と努力とに敬意を表さうと思ふ。譯文も極めて暢達でそのまゝ沈痛熱烈なルツ

ソウの聲を聞くやうである。教育者のみならず、一般の家庭に

▲東京朝日新聞曰く、近代新教育の發端とも目せらるるルツソーのエミールは既に早く邦語に譯出せらるべきなりしものなり明治の初期ルツソーの政治論は頗る持て囃されたるも其の教育説はさまで注意を惹かず、後其のエミールの名其の梗概は多く人の知る所となりしも全文の譯せられたるものはなほ今日まで世に存せざりき近時に至りルツソーの『懺悔録』の譯せらるるもの既に二三に及び今また此のエミールの全譯を見る所ルツソー著述の續々世に出づるもの亦何等かの徵候とも見るべし器械的にして個性を撲滅するを以て教育の心得自由の發展を危険と思惟する今の官僚教育に對し本亦一の其刺戟劑たるべく早く譯出せらるべきなりし書の今出でたるも故なきにあらず

▲雜誌「日本及日本人」曰く、ルツソーの革命的熱誠は、其自然を尊んで人為的因襲を排する所に胚胎してなる。人間としての個人の覺醒を主として、それを國家社會に推し及ぼすに、何等の流弊を見ないのである。其著エミールは、

當時の教育方法及制度に反抗する教育革命論とも見られるが要するに、個人として人を作る其理想を、エミールといふ一孤兒——實はルツソーの子——に託して表白したのである。それも單に教育の因襲を喝破したに止まらないうで、幼時期、五歳から十二歳まで、十二歳から十五歳まで、十五歳から廿歳まで、女子教育等の五編に分つて、官覺的教育を始め道徳宗教の教育に至るまで、丁寧親切に反覆説明したものである。其各編何れも言はず、冒頭の一語も、結末の一語も、悉く真理の光りを放つて、晁々輝くものがある。このエミールが當時佛國人士の反感を買つて、如何に恐るべき騒動を生じたかは、當時の歴史に明らかである。時人は異なつてゐるに言へ、今日の我が國の教育者は固より家庭の人たる何人にも多大の教訓と覺醒を與ふるものがあらう。譯文も亦た流暢平易で譯者の此の譯を思ひ立つた動機も面白い。

居るのは、至る所に見出される之れ吾が教育界の現狀である。近時一部の人々が憂へて居る、個人主義的傾向の盛んなる、自我意識の發達著しきは、此の個性を無視する、教育に對する反動的現象ではないかと思ふ。譯者は云ふ、『原著者ジャン・シヤツク、ルツソーは、丁度日本現時の教育の様な教育が行はれつゝある時代の佛國に於て、彼が佛國の子女を救済せむとする熱誠は非凡なる彼が才能と、批評眼とに依つて、エミールの一巻となつた』。實に其の鋭き觀察味ふべき言句取つて以つて我が教育界に呈し度いものが至る所に見出される。蓋し天才の作として得易からざるものであらう。全部そのまゝに採る譯には行くまいが、カントやヘスタロツツが、感化刺戟を受けたと云ふ事でも其價值知る可きであらう。エミールの幼時より二十歳迄の四期に分ち、別に女子教育の一編まで都合五編。後者はエミールの配遇者たる可き、ソフイーの教育法を述べて居る、譯文流麗さは批評の月並であるが實際翻譯の巧妙と原著者の筆筆と相俟つて卷の終はるを知らない程である。教育者は勿論、各家庭の人達に是非一讀を望む。

コメニウス原著 三浦關造先生譯

全一册
近刊

大 教 育

菊判大册
布綴美本

教育家、經世家須く此の一大權威書を百讀せざる可らず

著名の全譯出づ

ペスタロッチ原著 野田豊實君譯

教育小説 愛と操

原名『リエンハルト・ウント・ゲルトロード』

教育思想史上の一大偉人ペスタロッチの中心思想は蓋し「リエンハルト・ウント・ゲルトロード」の巻に盡くといふも不可なし、本書の思想が世界を震撼したるが如く其の教育界を動かしたるもの甚だ多かりしに拘はらず僅かに「酔人の妻」なる抄譯ありしのみなるは識者の久しく憾みとせし所、今回譯者親しく獨逸原文に就いて此の世界的一大名著の全譯を試む、これによつて我が教育思想界の裏澤亦更らに溢きあると共に一般家庭は好個の讀本を得たるを喜ばん、希くは教育家は勿論宗教家も政治家も實業家も苟くも心を子弟教養の上に措くの士は一讀せられよ。蓋し得る所少なからざるべし。

全二冊 各冊八圓拾錢 送料各十錢

酔人の妻の全譯

『エミールの姉妹篇』

野田豊實君譯 杉浦非水畫伯裝釘 全一冊

ペスタロッチ教育寓話

警拔なる人生批評

浩瀚なる幾十種のペスタロッチが著作中であつて最も異色あるものは本書なり。原著者自らリエンハルト・ウント・ゲルトロード(愛と操)を人民用の一書と稱し、これに配するに本書を以てし人民用の初等讀本といふ。簡淨犀利の筆を揮うて人生教育の神髓を指摘し來る所、寓話といふと雖も單に形式上の名のみ、其の内容本意は實に彼れが宇宙觀、社會觀、國家觀等を根柢とせる教育主義の宣傳に外ならず、本書收むる所二百有餘篇の寓話は十年苦心の餘に成れるもの、愛と操と相待つて彼れが教育主義の全幅を窺ふべき要書也、若し夫れ巻頭收むる所の譯者のペスタロッチに至りては優に二百頁の大論文にして、彼れの時代を語り彼れが教育を論じ、ペスタロッチ研究者否教育者に取りて好個の指南車たり。幸に「愛と操」と共に本書の愛讀を祈る。

菊判紙數八百餘頁
總布綴箱入美本
定價未定
送料未定
近刊

ゲーテ原作 文學士高木敏雄先生譯

ゲーテ 伊太利紀行

杉浦非水畫伯裝釘總布綴箱人優雅美本
三色版、石版、コロタイプ刷口輸入四六判七百數十頁

全一冊 壹圓八拾錢 送料十二錢

一千七百八十六年から同八十八年の初めに亘るゲーテの伊太利紀行は、獨り此世界的大詩人の生涯に一大變轉期を成してゐるばかりでなく、實に獨逸文學に於ける一個重要な變轉期を作つてゐる。ゲーテは自ら此一個半年を稱して彼の生涯中の一大時期と呼んでゐる。此紀行の内容は紀行それ自身が物語つてゐるから、別に説明の要はないが、流石空前絶後の大詩人の紀行だけであつて、旅行の計、途中の行動、感想、見聞、超凡俗の境あり、且精力の無限に多量であり、興味、興味の無限に廣大であり、知識の無限に豊富であるのに誰一人として驚かされぬものはあるまい。

▲新潮曰 一千七百八十六年から一千七百八十八年の初に亘るゲーテの伊太利紀行は、獨り此世界的大詩人の文學的生涯に於て一大變轉期を成して居るばかりでなく、又、實に獨逸文學に於ける一個の重要な變轉期を作つて居る。此の旅行の動機は即ちゲーテがワイマルに於ける不安と煩悶であつて、其の旅行の結果は彼れに取つて一種の復活であつた。ゲーテ自ら一ヶ月半の旅行を稱して、我が生涯中の一大

時期と呼んで居る。即ちゲーテは此の旅行に依つて、自身を詩人として再び見出したのである。カールスバードに湯治に行つて居たゲーテが、いよいよ堪らなくなつて其所を出發して伊太利へ向つたのは、一千七百八十六年の九月三日で十月二十九日に羅馬へ到着した。そして、主として古代藝術と文藝復興期の作品を研究しつゝ、家チンバイン、女性畫家アンゲリカ、カウフマン、藝術批評家モリツナなど、交際して居た。彼の有名な戯曲「イフゲニー」が韻文で出来上つたのは、其の翌年の一月である。二月二十二日にナポリに向つて出發し、四月から五月までシシリアに滞在して居る中に、ゲーテは熱心にホメアの詩篇を玩味した。其の結果は悲劇「ナウシカア」の立案となつた。それから再びナポリを経て羅馬へ引返し、其所に其の年の暮まで約九ヶ月の間滞在して種々の興味ある遊樂に耽つた傍らに、詩を作つたり「ハヴスト」に筆を執つたり、エグモントを著上つたりして居るが、此第二回の羅馬滞在の記事は伊太利紀行の別篇になつてゐる。謂ゆる伊太利紀行と云ふのは、一千七百八十六年九月三日カールスバードを出發して、翌年の五月十四日にナポリに着くまでの日記である。尤も日記と云つたことゝ、最初から一篇の紀行として書かれたものではなく、旅行の途中から故郷の友人などへ發した手紙を土葬にして、日記やノートの内容を加へて一篇の紀行を綴つたものである。流石は空前絶後の大詩人の紀行だけであつて、旅行の計畫途中の行動、感想など、總べて凡俗を超越して居るばかりでなく、ゲーテ其の人の精力の無限に多量であり、興味、興味の無限に豊富であり、智識の無限に廣大であることに驚かぬわけには行かぬ。此の一篇の紀行の價值はゲーテを知らぬ人々欲する者は必ず之れを一讀しなくてはならぬ。

キルヘルム・フッセット原著 (再版)
文學士 大川周明先生譯

宗教の本質

▲圖版二十面、紙數三百餘頁、菊判總布綴、
▲三上知法畫伯意匠頗高雅新裝箱入
▲定價金壹圓拾錢 小包料十二錢

大阪毎日新聞曰 獨逸のフッセット博士の名著「宗教の本質」の譯本にして原書は宗教に對する極めて明瞭なる概念を與へるため、宗教進化の跡を忠實に辿りてあらゆる重要な宗教現象を殆ど洩れなく摺摺し出来るだけ公平と同情とを以て簡潔に叙述したるものなるが世界各宗教の特色を一斑を知得するには最も便利にして殊に譯文の流麗なるは喜ぶべし。

萬朝報曰 著者を獨逸ゲツチンゲン大學教授ウイヘルム・フッセット氏とす、本書は世界に於けるあらゆる宗教の進化し來れる徑路を研究し、宗教の本質を闡明せんことをその野蠻人の宗教より佛教、回教、波斯教等の東方に於ける宗教アラトン教、基督教に至る迄、最も平明なる態度を以て記述す、しかも基督教の本質及び其將來を論ずる二章は實に本書のキイノートにして、原著者の蘊蓄も亦此問題に傾注せられたる觀あり、宗教問題研究者の必讀を要す。

東京日々新聞曰 原書は宗教哲學のオトリリチーなるゲツチンゲン大學教授キルヘルム・フッセットの著に係り最も簡潔に然も忠實公平に宗教進化の跡を辿り、且つ極めて明瞭に重要な宗教の概念を叙述せるもの宗教研究者に切要なるべき書なり。

帝國教育曰 寺院と教會の衰微なりと速断して之を如何にせんは百万方苦慮せる僧侶と牧師とは憐れの者である。人々の宗教心は如何に世が物質生活萬能を表示した時代に於ても、消滅しなげない、舊い傳道法は到底新しい信者を満足せしむるものでない、寺院と教會の衰微はこの過渡期の現象として當然現はれるべきものが現はれた途である。而して如此過渡期に於ける信者の大部分が懷疑的であることも亦當然である。懷疑は自ら解き得ず時に眞に解き得ずたものである。云つたやうな示唆は少くもこの種の信者をして自ら宗教を研究せんことを希望を起さしめつゝある。この時に際して宗教の本質を明にせんが爲に本書を譯したる著者は、少くも宗教の前途を憂へる人であることな證明して居る。原書の前には著者の序文に依つて明かである如く正統基督教の前途にはなるべからざるものである。故に基督教の將來如何を憂ふる者は必ず讀むべきである。しかも著者は「公平無私なる宗教の研究は吾國民の手に持たればならぬ」と云ふ其裏面には熱心なる東洋宗教——佛教儒教の研究であることを示して居る。余は新信仰を得んとせる否眞に宗教の本質を知らんことを研究者は本書によりて十派百派を分離開闡せる幾多の宗教に共通のもの、所謂宗教の神髓を發見する場合が少くはなからうと信じて之をこの種の研究者に推奨する。

思想界の權威書

法學博士 浮田和民先生著

再版 倫理的帝國主義

菊判布綴箱入
金二圓五十錢
小包料十六錢

再版 三宅(文坪内(文)丘(理)三博士外二大家合著

再版 最新思潮講話

菊判洋裝美本
金壹圓
小包料八錢

再版 文學博士 朝永三十郎先生著

再版 哲學と人生

菊判布綴美本
金壹圓
小包料八錢

再版 トルストイ著 小田賴造先生譯

再版 人道主義

菊判九百餘頁
金九十錢
小包料八錢

思想界の權威書

再版 文學博士 桑木嚴翼先生著

再版 現代の價值

菊判布綴金線
金壹圓三十錢
小包料十二錢

再版 文學博士 桑木嚴翼先生著

再版 時代と哲學

菊判布綴金線
金壹圓二十錢
小包料十二錢

再版 文學博士 松本文三郎先生著

再版 宗教と學術

菊判布綴金線
金壹圓三十錢
小包料十二錢

再版 文學博士 加藤玄智先生著

再版 宗教講話

菊判布綴美本
金九十錢
小包料八錢

空前にして亦恐らく絶後の大計畫

奈翁會編

會長 海軍中將男爵 肝付兼行閣下
編輯長 陸軍編修官 長瀬鳳輔先生

文章雄麗・思想健實
最詳最密最美

奈翁全傳

出づ、青年、學生、軍人、教育家須く讀め

偉人中の偉人、英雄中の英雄たる大奈翁の詳傳を見よ、句々肉躍り骨鳴るの快文字!!
挿畫數百面 三色版、凸版、凹版、寫眞入總紙數三千二百頁以上 菊判各冊四百五十頁乃至五百餘頁總紙數約一萬餘頁入箱入類美

各卷『奈翁年譜』附録

各冊讀切 何れの一巻を取りて讀むも奈翁の全傳を窺ひ得べし

東京朝日新聞曰く 肝付兼行男爵名譽會長とし、長瀬鳳輔氏を編輯長として、奈翁會が組織せられた。其の目的は、英雄の事蹟を研究して、現代の淫蕩浮華の風を排せんとするに在り。本書奈翁全傳は、其の目的から先づ第一着として出版せらるゝ。その目録は、全部七巻より成り、第一巻は即ち、ナポレオンの少壯時代、今出版に

●ナポレオンの少壯時代(七版)

●佛國革命とナポレオン(五版)

●帝王ナポレオン(四版)

●愛のナポレオン(三版)

●ナポレオンの鴻業(四版)

●末路のナポレオン(三版)

●ナポレオン史話(再版)

各冊 壹圓五十錢
小包料 各冊十二錢

なつた本巻がそれである。第二巻は佛國革命とナポレオン、第三巻は帝王ナポレオン、第四巻は愛のナポレオン、第五巻はナポレオンの鴻業、第六巻は末路のナポレオン、第七巻はナポレオン史話である。全部七巻三千頁といふ大冊をなす。本邦に於けるナポレオン傳の最詳完全なるものである。加ふるに有刺等有名ナポレオンに關する繪畫彫刻等の上は最も益することがあること信する。本巻は四百頁で製本も極めて莊麗である。

奈翁會編

永代靜雄先生著

杉浦非水先生意匠願美本

女皇クレオパトラ

菊判四百五十頁

金壹圓五拾錢

小包料十二錢

奈翁會刊行

近刊

ネルソン全傳

全二冊

大町桂月
先生校訂

國文注釋全書

杉浦非水氏裝
四六判布綴
箱入頗美本
各卷定價不同

●先づ先生の抱負を讀め●

「進みたる世に生れたるうなるも昔の事を先づ教へなむ」
と明治天皇は歌ひ給へり。日本國民は何人も日本の歴史を知らざるべからず。中等社會以上に立つ者は、更に進んで古典を味はざるべけんや。
支那文學我國に入りてより凡二千年、歴代の巨匠、心血を揮りて漢詩漢文を作りたれども、竟に本家の支那人には満すること能はざりき。思ふに今後日本人にして、西洋文學に通じ、西詩西文を作る者も多く輩出すること、なほ在來漢詩漢文を作りしもの、多く輩出したりが如くなるべし。されど到底西洋人を凌駕する精製品は出来ざるべし。昔に我が日本人が然るにあらざり、西洋諸國にても、他國の文學の眞似し、其本家の域に達したる例は、又西詩西文を作ることも必要也。然れども眞の文學は自國の人が自國の文を以て作りたるものならざるべからず。國民には、それぞれの國民性あり。國民性發して國語となり、國文となる。文學は國民性の粹也。國語の粹也。國文の粹也。普通日用の文ならば、外國人にも出来るべし。文學の粹は、國民の粹にして、始めて之をよくとす。外人到底其域に達すべくもあらざる也。我古文學は、思想に於て或は支那文學に劣り、西洋文學に劣る所あれども、國語の粹を極め、國文の粹を極め、國民の粹を極めて、日本獨得

の長所なしとせず。西洋直譯的文學は一時新奇の觀ありて、人の注目を惹けども、永き年月の波に淘汰せられて、自から消滅すべし。新しき文學に成功する者は、必ずや古文學の粹を得たる者也。文學の専門家ならずとも、古典を知らざる人は、餘りに薄ッべら也。少しも典行の無き人も、文明進むにつれて、常識の範圍廣まる。古典の素養は、紳士たる者の常識に缺くべからざる也。
明治の前半は、唯西洋文明の模倣に急なりき。明治二十年頃より、國民漸く自覺し來り、落合直文、池邊義象、萩野由之諸先生輩出して、古典の普及に與つて力ありき。爾後、古典多く購刻せられたり。注釋書も多く出でたり。されど繁に失するあり、簡に失するあり、校合の粗漏に失するあり、校正の正確ならざるあり。茲に古文學として讀書家の見通すべきものを測りて、注釋を施し、校合を精にし、校正を嚴にし、此叢書を發行して、竊に以て古典の定本とせざるもの也

徒然艸 方丈記 全
東關紀行 全
送料八錢

枕艸紙 全
定價未定
以下續刊

繪畫

研究

愛好

者の

必讀

著書

岡田三郎助先生閱 川崎安先生著

人體畫法

改訂四版 名畫寫真其他圖版數十面挿入

菊判新裝
天金ぶち
金九十五錢
送料八錢

天には星、地には花、中に位して其の研を争はんとするものは人體の美にあらずや。彼の洋畫が人體畫を以て其根柢となすもの誠に其の故ありと謂ふべき也。されば苟くも繪畫の事に従ふものは、先づ人體の研究に委しうして以て其の堂奥に上るの準備となさざる可からず。本書は川崎安先生が多年の積蓄を傾け盡して著作せられたるものを更に現今洋畫界の泰斗たる東京美術學校教授岡田三郎助先生が歸朝以來、中等教員木炭畫指導に於ける數回の經驗に鑒み嚴正周密なる校閲の勞を賜はりたるもの、以て學畫の入門となるべく、以て畫界の津梁となすべし。藝術に志ある者は必ず讀まざるべからず。

人體美論

美感新論

コロマイブ版、寫真版其他
圖版數十面入、菊判美本
金壹圓貳拾錢 十二錢料

名畫、其他寫真圖版十數葉
菊判美本
金七十五錢 八錢料

川崎安先生著
久保田米僊先生著

小島烏水先生二名著

五版 日本山水論

金壹圓三十錢
小包料八錢

▲菊判三七〇頁…石版口繪三葉…コロタイプ二葉…銅版六葉…總布綴類美本▼

□第一章 山水の意義…□第二章 日本山嶽美論…□第三章 登山論…□第四章 日

本山系概論…□第五章 登山準備論…□第六章 山と紫色…□第七章 裾野及湖沼…

第八章 日本の高山深谷を跋渉したる外國人及び其紀行…□第九章 森林論…□第十

章 日本山嶽の生物…□第十一章 豁谷の美…□第十二章 豁谷の四季…□第十三章

木曾の豁谷…□第十四章 雜記…□挿畫 山嶽の胡蝶、高山植物、山水風景十八圖…

三版 山水無盡藏

金七十五錢
小包料八錢

華麗にして莊重、多趣にして暢達、亂山曲水、斜風細雨、描きて神に入らざるはなく
叙して奇を盡さざるなきは烏水氏の文也、著者いま此筆を緯とし其透明なる科學的頭
腦を經として、南船北馬人跡未到の山水を涉りして本書を成す。蓋し著者の平生を知
る者は、本書が其蘊蓄を傾盡したるものならざる可からざるを知らん。日本の山水に
一層の光彩を放たしむるものは著者にして、著者は又此著によりて益々其名重し。

▲四六版三百餘頁…三色版口繪二葉…寫真版二葉…總クローズ綴…高雅類美本▼

263.7

38

終

